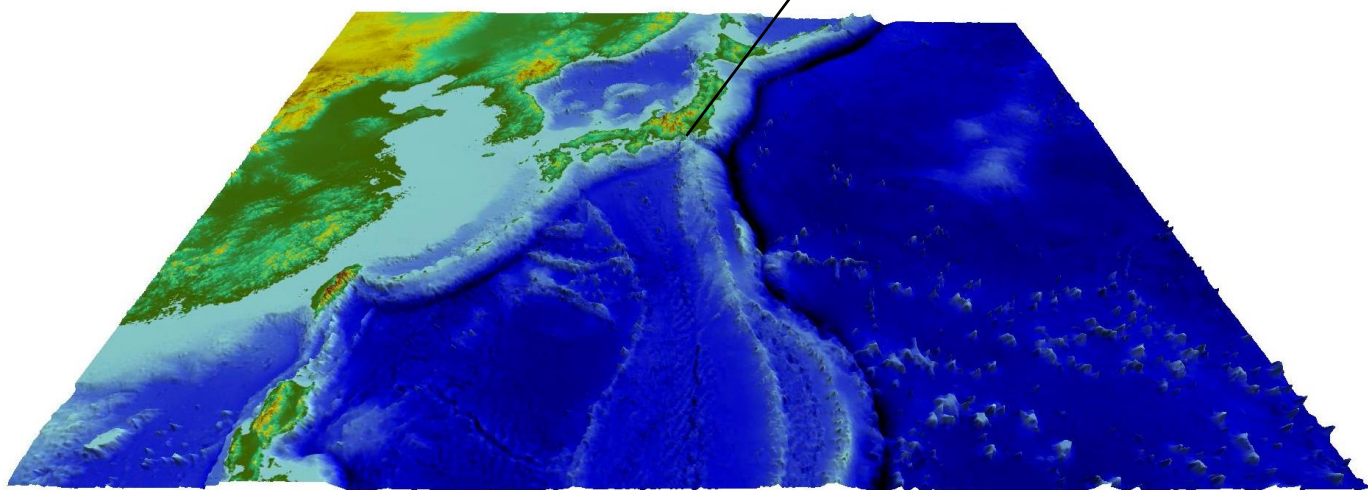


南から来た**火山**の贈りもの

伊豆半島ジオパーク



世界ジオパークネットワーク 加盟申請書

伊豆半島ジオパーク推進協議会

目 次

A. 地域の確認	1
A-1 申請ジオパークの名称	1
A-2 申請ジオパークの自然地理学ならびに人文地理上の特徴	1
A-3 申請ジオパークを運営する組織と運営構造	6
A-4 申請者の連絡先	8
B. 大地の遺産	9
B-1 申請地域の位置	9
B-2 地質概要	10
B-3 主なジオサイトの記載	14
B-4 ジオサイトの国際・国内・地域的価値	25
C. 地質の保全	25
C-1 申請地域の抱える課題	25
C-2 申請地のジオサイトの保全に関する仕組み	26
C-3 ジオサイトの維持管理の現状及び事例、データ	27
C-4 ジオサイト以外の一覧と説明	31
D. 経済活動とビジネスプラン	32
D-1 申請地域の経済活動	32
D-2 申請地域の現存施設と計画中的施設	34
D-3 ジオツーリズムの将来性分析	36
D-4 持続的開発についての概要と方針	39
D-5 申請地域の地域社会の発展の取組と事例	42
D-6 申請地域の人々の関心を高める取組と事例	43
E. GGN加盟にける期待と主張	43

■付録

- ・ ジオサイト/ポイントマップ
- ・ ジオサイト/ポイントリスト

A. 地域の確認

A-1 申請ジオパークの名称

伊豆半島は豊かな自然環境に恵まれ、その中でさまざまな歴史・文化・食などが育まれてきた。国内有数の温泉地でもあり、古くから豊かな自然の恵みを楽しむ観光地として多くの旅人を受け入れてきた。こうした伊豆の環境の多くは、伊豆半島の成り立ちや地学的な現状と密接に関連している。当ジオパークは伊豆半島全域を対象とし、「伊豆半島ジオパーク (Izu Peninsula Geopark)」とする。

伊豆半島ジオパークは、フィリピン海プレートの北上に伴い本州に衝突した地質体としての「伊豆」と、文化圏・観光圏としての「伊豆（かつての伊豆国）」のおよそ共通部分にあたる。



図 1 伊豆半島ジオパークの位置

A-2 申請ジオパークの自然地理学ならびに人文地理上の特徴

A-2-i 申請地域の範囲

伊豆半島ジオパークは、伊豆半島を構成する 15 市町（沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町）の行政区域で、面積は約 1,585km² の範囲である（図 2）。

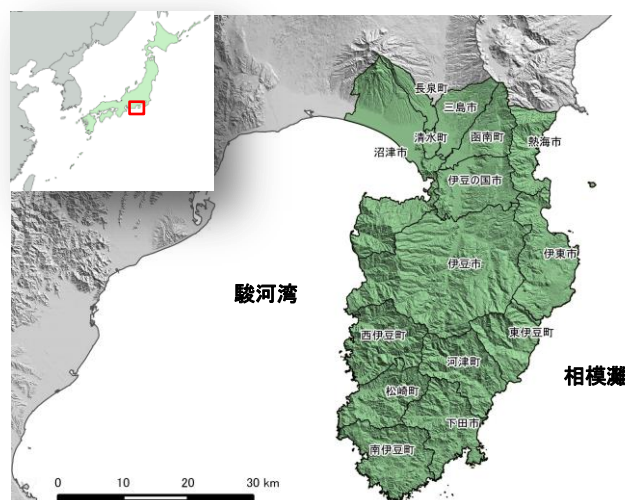


図 2 伊豆半島ジオパークの範囲

A-2-ii 自然地理概要

【地形】

伊豆半島は静岡県東端から南へ 60km 突き出した半島で、東西は約 40km、長い海岸線は 318km にも及ぶ。北部にある田方平野を除き、山地が大部分を占める。最高峰は標高 1405m の万三郎岳（天城山）で、一帯は国内有数の多雨地帯である。海に突き出した高い山地は当地域に多くの雨をもたらすと同時に、入り組んだ海岸地形を作り出している。こうした複雑な地形は、伊豆半島内の各地を隔て、地域ごとに多様な風土を形成している。

半島東部の相模灘は、初島のすぐ沖で水深 1000m となり、大島の南側の湾口部では水深 1500m である。西側の駿河湾はさらに深く、石廊崎と御前崎を結ぶ線上の湾口部では水深 2500m にも達

する。このような深い湾は、外洋の海水の影響を強く受けている。日本列島の南岸に沿って流れてくる黒潮は伊豆半島南方に続く火山弧の高まりにぶつかり、大きく蛇行して湾内に流れ込む。さらに黒潮の下層にはグリーンランド海域からの大循環に伴う深層水が流れている。

半島最大の河川である狩野川は、太平洋の河川としては珍しく北流する川である。その下流では、河道が火山噴出物や土石流によって狭くなり、大雨や台風の際にはあふれることも多い。狩野川を除いて大きな

川の河口がなく、海へ流れる土砂の量が少ない。沿岸部近くに深い海を有し、多様な温度・水質をもつ流れがあることから、周辺海域は豊かな漁場となっている。

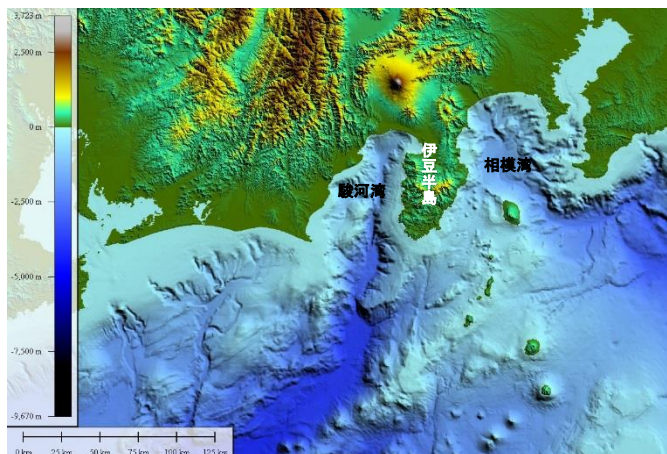


図 3 伊豆半島周辺の地形

【気候】

ケッペンの気候区分によると伊豆半島は温暖湿潤気候に属し、日本の他の大部分の地域と同じである。ただし、沿岸部と内陸部を詳しくみると様相は異なる。

黒潮の影響を受けた沿岸部の年平均気温は 15～17℃であり、南端の石廊崎周辺では無霜地帯となる。

一方、田方平野等の内陸北部では

日中と夜の気温差が大きく、冬季の冷え込みが強い。半島中央部の天城山付近は、太平洋からの湿った風が吹き寄せるために多雨地帯となり(天城山では年間 4,000mm を超える)、冬季は積雪になることも少なくない。西伊豆は、天城山を越えた乾いた風が吹くため雨が少ない。また、沿岸部は東京と比較すると冬暖かく、夏涼しいことがわかる(図 4)。

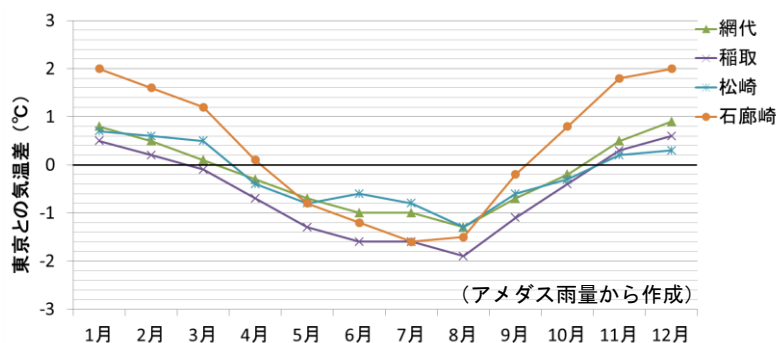


図 4 東京と伊豆各地の各月の平均気温の差

【生態系】

地域によって異なる気候は、伊豆半島の各地に多様な生態系を育んでいる。

万二郎岳や万三郎岳といった複数の峰からなる天城山には、太平洋岸では珍しく広範囲にブナ林が広がり、ヒメシャラ・カエデなどの天然林が生息する。田方平野東方の函南町には、第四紀火山の標高 500～850m の斜面に 2.2km² の原生林が広がる。この原生林には樹齢約 700 年の巨大ブナをはじめ、アカガシ、ヒメシャラなどの巨樹が群生する。函南町・三島市のかんがい用水の水源涵養林として、江戸時代から保護されてきた。

伊豆半島北西部、沼津市の大瀬崎一帯には、砂嘴地形に沿ってビャクシンの群落が分布する。礫浜に進出したこの群落は、自然群生地としては日本最北端にあたり、「大瀬崎のビャクシン樹林」として国の天然記念物に指定されている。

伊豆の海では温帯性の多様な生物が生息している。伊豆沿岸からは多くの新種（シマキツネベラ等）や日本初記録種が報告され、伊豆周辺以外ではほとんど見られない特有の魚種（シロオビハナダイやホタテエソなど）が多い。伊豆半島付け根の内浦湾は造礁サンゴ（エダミドリイシ）の北限となっている。相模灘や駿河湾では深海性の魚分類（リュウグウノツカイ、ハダカイワシ、ユウレイイカ、ツブエゾイバラガニなど）が、駿河湾には世界最大級の節足動物であるタカアシガニが生息する。また、沿岸のほとんどの藻場の分布があり、岩場にはガラモ場、テングサ場、砂地にはアマモ場などがみられ、藻場の海藻は、アワビやサザエ、ウニなどの餌となっている。



大瀬崎のビャクシン



天城山のブナ林



ムレハタタテダイの群れ

A-2-iii 人文地理的特徴

(a) 人口

伊豆半島ジオパークのエリア内15市町の人口は約69万人、世帯数は約28万世帯である（2010年国勢調査）。

図5に国勢調査に基づく500mメッシュの人口分布を示す。大部分が山地で占められる半島では、居住地域が限られ、沿岸部や山間部の狭い平野に人口が偏在している。特に、半島北部の狩野川中下流域の田方平野内周辺に位置する5市町（沼津市、三島市、函南町、清水町、長泉町）で人口の約61%を占める。

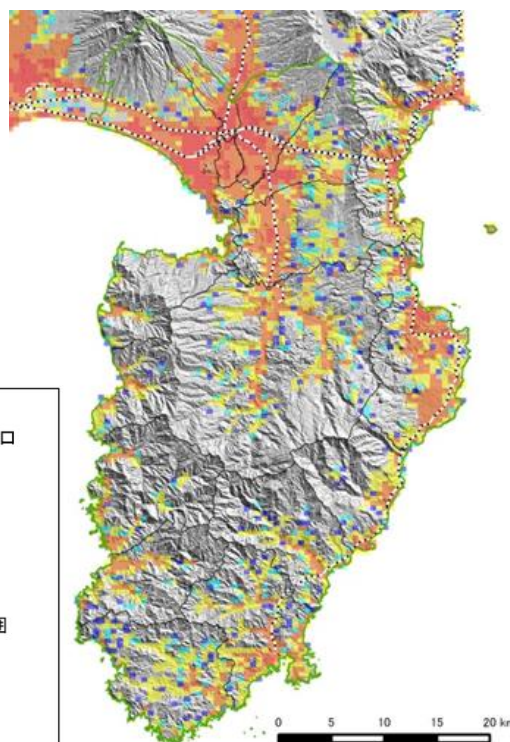
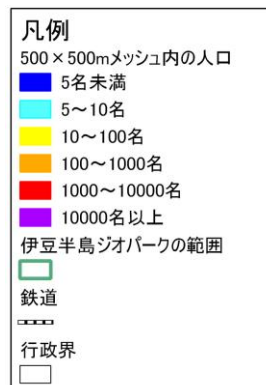


図5 半島内の人口分布

(b) 文化歴史的特徴

伊豆半島における人々の生活の痕跡は、約 3 万年前の後期旧石器時代まで遡る。狩猟など食物採集が中心であった旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡は、愛鷹山麓や箱根西麓などの丘陵地などに多く分布している。

伊豆は古来より東方海上交通の要衝であったとされるが、その事実を裏付けるものとして、河津町の見高段間遺跡などからは神津島産の黒曜石も多数発見されている。この場所は、南関東から伊豆一円に流通した神津島黒曜石の集積地であったとされる。

稲作が中心となった弥生期以降の遺跡は、伊豆半島南部に多く残る。南伊豆町の日詰遺跡、河津町の姫宮遺跡、下田市の夷子島遺跡など、平地に乏しい伊豆南部は海岸線や川沿いを中心に開拓された。

古墳時代の遺跡としては、伊豆で初めて前方後円墳が確認された向山古墳群や、公園として整備されている柏谷横穴群、江間横穴群などが発見されている。飛鳥時代には三島や沼津を中心に条里制が敷かれ、現在の田方平野の農地区画や道路などの基本的な構造が形成された。

また、平治の乱で伊豆へ配流となった源頼朝の旗揚げや、幕末に下田条約が結ばれたことでも有名な伊豆には、頼朝が約 20 年間を過ごしたと言われる「蛭ヶ小島」、北条政子生誕地である「願成就院」、江戸末期に江川担庵により大砲製造が試みられ現在もほぼ完全な形で残る「韮山反射炉」、我が国初の米国総領事館となった「玉泉寺」など、数多くの国指定史跡が残されている。



柏谷横穴群（函南町）



夷子島遺跡（下田市）



韮山反射炉（伊豆の国市）

【石材・鉱山資源の活用】

伊豆の歴史・文化で特筆に値するものとして、伊豆石とその石丁場が挙げられる。伊豆石は伊豆半島特産の石材で、古くから各種石造建築に使われてきた。硬質で重く耐久性に優れた安山岩質の「伊豆堅石」は江戸城や駿府城などの石垣に、軟質で軽く加工しやすい凝灰岩質の「伊豆軟石」は石蔵やかまど、屋内の装飾建材として使われている。

伊豆堅石については、2011 年 9 月、伊豆一円に点在している伊豆石石丁場跡の中から、初めて伊東市宇佐美にある江戸城に係る石丁場遺跡の一部が市指定史跡に登録された。

伊豆軟石は江戸を中心とした関東に広まっていたが、その理由としては、加工しやすいという特徴とともに、物流の中心が水運であったことが挙げられる。関東大震災と陸上交通の発達により栃木県の大谷石が広まることになるが、伊豆軟石の独自の風合いから、現在でも一般家屋の浴室や床材として好んで用いられている。歴史ある蔵や下田市の街並みにある家屋の壁として伊豆の各地で見られる。

また、伊豆石以外にも金をはじめとした鉱物の産出も多く、中世においては金の産出量で東北と並ぶほどであり、土肥金山、龕附天正金鉱などの鉱山跡も市指定史跡となっている。



江戸城石丁場遺跡（伊東市）



伊豆石の街並み（下田市）



龕附天正金鉱（伊豆市）

【土地に根ざした信仰・祭り】

「延喜式」神名帳には伊豆の式内社として 92 座が掲載されており、静岡県内の他地域と比べて式内社の数が多いことが分かる（駿河は 22、遠江は 62）。古来より伊豆は地震・火山噴火などが多い地域であった。自然災害の脅威は神への畏怖へとつながり、神の怒りを鎮めるために多くの神社が建てられたものと考えられている。

伊豆一の宮「三嶋大社」（本殿など国重要文化財指定）の主祭神である三嶋大明神は、三宅島や神津島などで噴火があるたびに神格が上がった。一説には、三嶋大明神は三宅島から下田の白浜神社を経て三島へ遷ったとされるが、伊豆最古の神社とされる白浜神社では現在も例大祭を行う前に伊豆諸島の神々に祭りの始まりを告げる火祭「火達祭」を行っている。

また、石廊崎の先端に祀られている石室神社など、海上安全の守護神として海で暮らす人々に崇拝された神社も多い。



三嶋大社（三島市）



白浜神社の火達祭（下田市）



石室神社（南伊豆町）

【文学者と伊豆】

温泉資源に恵まれた伊豆は、文学者に愛された場所でもある。天城湯ヶ島と縁の深い井上靖（「しろばんば」等）や川端康成（「伊豆の踊子」等）、熱海や沼津などの旅館で「斜陽」「人間失格」などの著名な作品をのこした太宰治、土肥を舞台に「TSUGUMI」を書いた吉本ばなななど、伊豆の自然や素朴な人々に魅了された文学者は枚挙に暇がない。他の作家・作品と関わりの深い施設も多数ある。



『人間失格』が書かれた起雲閣



『伊豆の踊子』の天城隧道



三島由紀夫『獣の戯れ』の黄金崎

A-3 申請ジオパークを運営する組織と運営構造

A-3-i 伊豆半島ジオパーク推進協議会

伊豆半島ジオパークの運営組織は伊豆半島ジオパーク推進協議会である。

協議会は交通事業者や地域のメディアを含む表 1 の 54 団体により構成され、総会、幹事会、事務局、専門部会よりなる。総会は原則として年 1 回、各団体の代表者を集めて開催し、規約の制定・改廃、事業計画・予算等の決定やその他重要事項の審議を行う。各市町・県の担当課長等及び市町推薦団体（各市町 1 団体）よりなる幹事会は、総会に諮る案件の検討や事業計画の執行を担い、事務局は事業の具体的な執行とジオパークの窓口機能を担う。専門部会は「保全」「ジオツーリズム」「教育」「学術研究」の 4 つが設置されている。

表 1 伊豆半島ジオパーク推進協議会 会員一覧

県
静岡県
市町
沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、長泉町、清水町
観光関連団体
伊豆観光推進協議会
市町推薦団体
沼津商工会議所、NPO法人沼津観光協会、熱海市観光協会、(社)三島市観光協会、三島市ふるさとガイドの会、NPO法人まち こん伊東、(社)伊東観光協会、(社)下田市観光協会、下田市商工会議所、天城自然ガイドクラブ、静岡県立伊豆総合高校、(社)伊豆の国市観光協会、東伊豆町商工会、東伊豆町観光協会、河津町商工会、南伊豆町観光協会、松崎町観光協会、西伊豆町商工会、西伊豆町観光協会、函南町観光協会
その他団体
(社)三島建設業協会、(社)下田建設業協会、伊豆急行株式会社、伊豆箱根鉄道株式会社、伊豆箱根バス株式会社、東海自動車株式会社、静岡県タクシー協会伊豆部会、静岡県道路公社、株式会社静岡銀行、株式会社伊豆急ケーブルネットワーク、株式会社伊豆バス
研究機関
静岡大学防災総合センター
国の機関
環境省箱根自然環境センター、国土交通省沼津河川国道事務所、林野庁伊豆森林管理署、静岡地方気象台

A-3-ii 事務局体制

事務局は会長の所属団体に置くこととしており、現在は伊東市役所内に設置されている。

2014 年度からの事務局体制を含む協議会組織図は図 6 の通りである。2011 年度から採用している専任研究員（地質・防災等）に加え、2013 年度には国際担当として外国籍の専任研究員（地理・環境）を新たに採用し、英語等によるコミュニケーションも潤滑となり、既に海外の研究者との交流や情報発信も開始している。さらに 2014 年度からは伊東市に加え、伊豆市からの職員派遣を受け、事務局長を含む 8 名体制とし、半島内の自治体・企業等との連携をさらに促進することとしている。

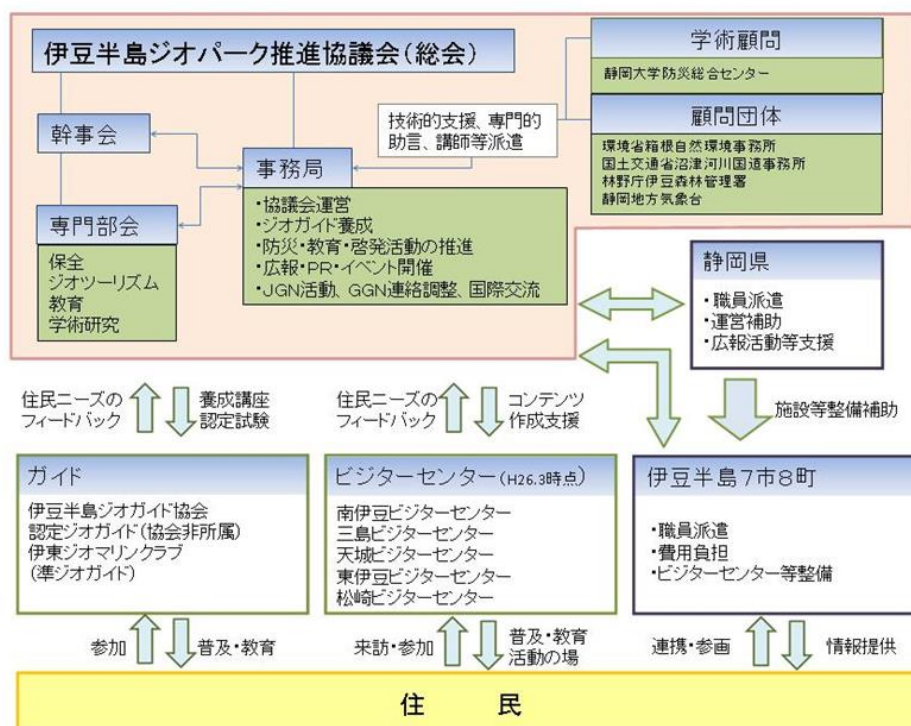


図 6 伊豆半島ジオパーク推進協議会 組織図

A-3-iii 協議会をサポートする組織

協議会をサポートする組織として、静岡大学をはじめ様々な研究者や団体がおり、必要に応じ共同研究やガイド養成、講演会等の場面で支援を受けている。

特に静岡大学防災総合センターの小山真人教授は、伊豆半島ジオパーク推進協議会設立以前から現在に至るまで、構想指針書の策定やジオパーク地域勉強会での講師、事務局の運営等に関する助言など多方面にわたり活動を大きく支えている。

また、共同研究を行っている組織として静岡大学防災総合センターがある。2014年度は学術研究部会を運営する中でさらなる連携体制を構築する予定である。

○静岡大学防災総合センター

小山真人（教育学部教授と併任、火山学・歴史地震学）、狩野謙一（特任教授、構造地質学）、北村晃寿（理学研究科教授、第四紀の層序学・古環境学）、村越 真（教育部門長、教育学部教授、認知心理学・リスク心理学）、野津 憲治（客員教授、地球化学）、藤井直之（客員教授、地球物理学・地震予知）、増澤武弘（客員教授、環境動態解析・資源保全学）

○静岡大学教育学部

○静岡大学イノベーション社会連携推進機構 石川宏之（准教授 博物館学）

○その他 学術専門家

藤岡換太郎 元海洋研究開発機構 特任上席研究員

三宅 隆 NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク

金子 浩之 日本考古学会会員

田島 整 上原仏教美術館 学芸員

門田 真人 生命の星地球博物館 外来研究員

小林 淳 株式会社ダイヤコンサルタント

荒井 健一 アジア航測株式会社

○その他 ガイド養成に関わる支援

増田 直広 公益財団法人キープ協会(ガイド技術)

津田 和英 NPO法人ホールアース研究所(ガイド技術)

A-3-iv 財政

協議会は独立した予算・財務管理を行っている。主な収入は各会員からの会費（主に 7 市 8 町と伊豆観光推進協議会）、県補助金等であり、協議会が行うガイド養成や広報普及等様々なソフト事業や研究員等の人件費などの運営費に充てられる。

ビジターセンターやジオサイトの解説板・遊歩道・トイレ・駐車場等のハード整備は、2011 年度以降、各市町が県補助金を活用しながら整備している。

表 2 に推進協議会の運営費を、表 3 にハード整備にかかる整備経費を示す。

表 2 伊豆半島ジオパーク推進協議会の運営予算額推移

（単位：千円）

区 分	2011 年度	2012 年度	2013 年度
協議会運営費	33,759	30,000	38,747

表 3 静岡県観光施設整備事業費補助金のうちジオパーク関連事業の額

（単位：千円）

区 分	2011 年度	2012 年度	2013 年度
総事業費	140,034	329,919	465,061
県補助額	70,000	197,700	286,900
実施市町	5 市町	12 市町	11 市町

A-4 申請者の連絡先

伊豆半島ジオパーク推進協議会会長 佃 弘巳

〒414-8555 静岡県伊東市大原 2-1-1 伊東市役所内

Tel: 0557-32-1784 Fax: 0557-38-2867

B. 大地の遺産

B-1 申請地域の位置

当地域は、日本の本州中央部、北緯 35° 東経 139° 付近に位置する半島である（図 7）。

伊豆半島は、フィリピン海プレートの北端部に位置する。また、伊豆半島の南の海には太平洋プレートの沈み込みに伴う伊豆・小笠原弧の火山島が連なり、この島弧の最北端に位置するとも言える。この場所は、伊豆・小笠原弧と、日本の本州を構成する本州弧が交わる場所でもある。

伊豆半島の東西には、フィリピン海プレートの沈み込み帯である駿河トラフと相模トラフがつくる駿河湾および相模灘がある。この海は、半島の海岸部から 20km 足らずで水深 1500～2500m にもなる深い海である。

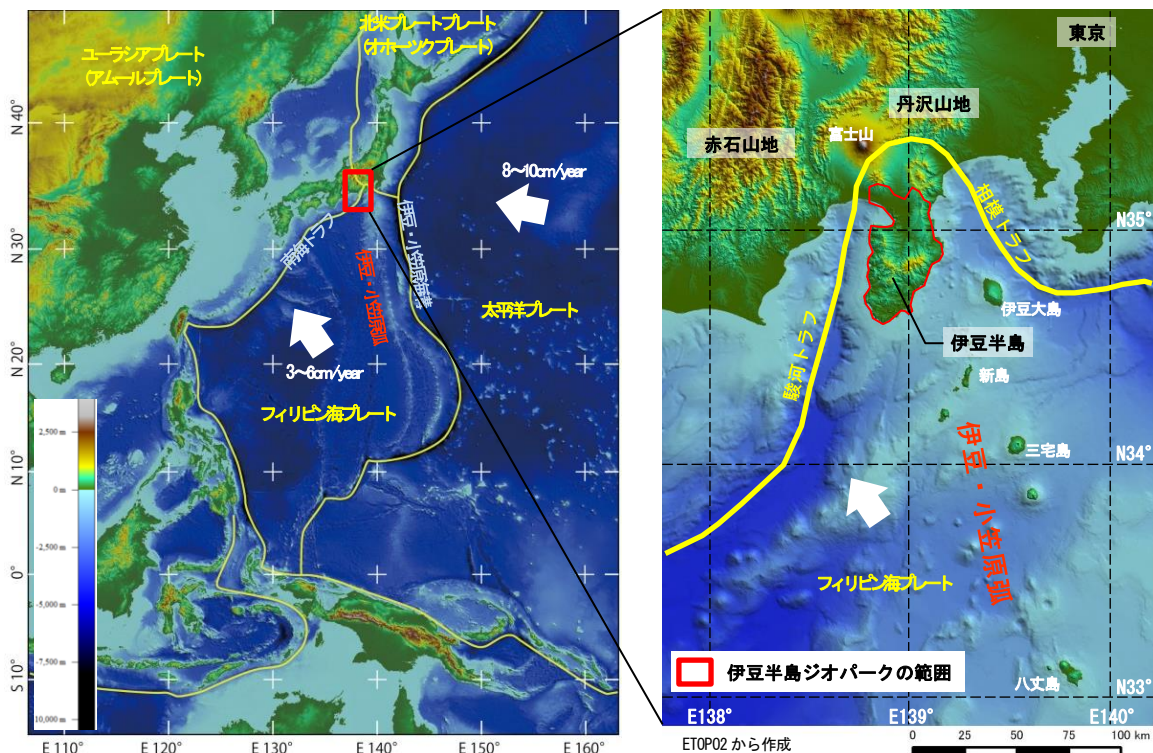


図 7 伊豆半島ジオパークの位置

周辺の海域には黒潮が入りこみ、温暖で湿潤な環境となっているため、南方系の動植物の影響を強く受けている。一方、本州と陸続きであることから、半島内の高標高部を中心に、北方系の植物も入り込み、様々な種類の分布限界（南限・北限）を占める地域となっている。

伊豆半島の植物にはイズやアマギの名を冠するものも多く、狭い地域に多様な種が共存する。限られた場所に多様な立地条件が分布するため、1つの種の中で気候条件の違いにより開花時期等に差異が生まれ、他の地域では珍しい多数の掛け合わせ種が存在する。

温暖で多雨な気候条件はシダ類や木本類の種類の豊富さも生み出す。特に南岸に近い山地では、高木層、亜高木層、低木層および草本層がそれぞれ充実している。



イズアサツキ
伊豆・伊豆諸島の固有種



アマギツツジ
伊豆半島の固有種



イソギク



ナチンダ
伊豆半島が分布北限

半島の東西にある駿河湾と相模灘は深海につながる深い海で、深海性の生物を含む非常に多様な生物が見られる。水産資源も豊富で、深海魚でもあるキンメダイは国内最大の水揚げ量を誇る。特徴的な生態として、スズメダイやチョウチョウウオの仲間をはじめ、本来熱帯や亜熱帯にいる魚が観察できることがあげられる。季節来遊魚と呼ばれるこれらの生物は黒潮に乗って伊豆半島沿岸に来るが、水温が下がる冬を越せないものも多い。伊豆半島付け根の内浦湾（沼津市）は造礁サンゴの北限にもあたる。



スズメダイ



ムレハタタテダイ



クマノミ

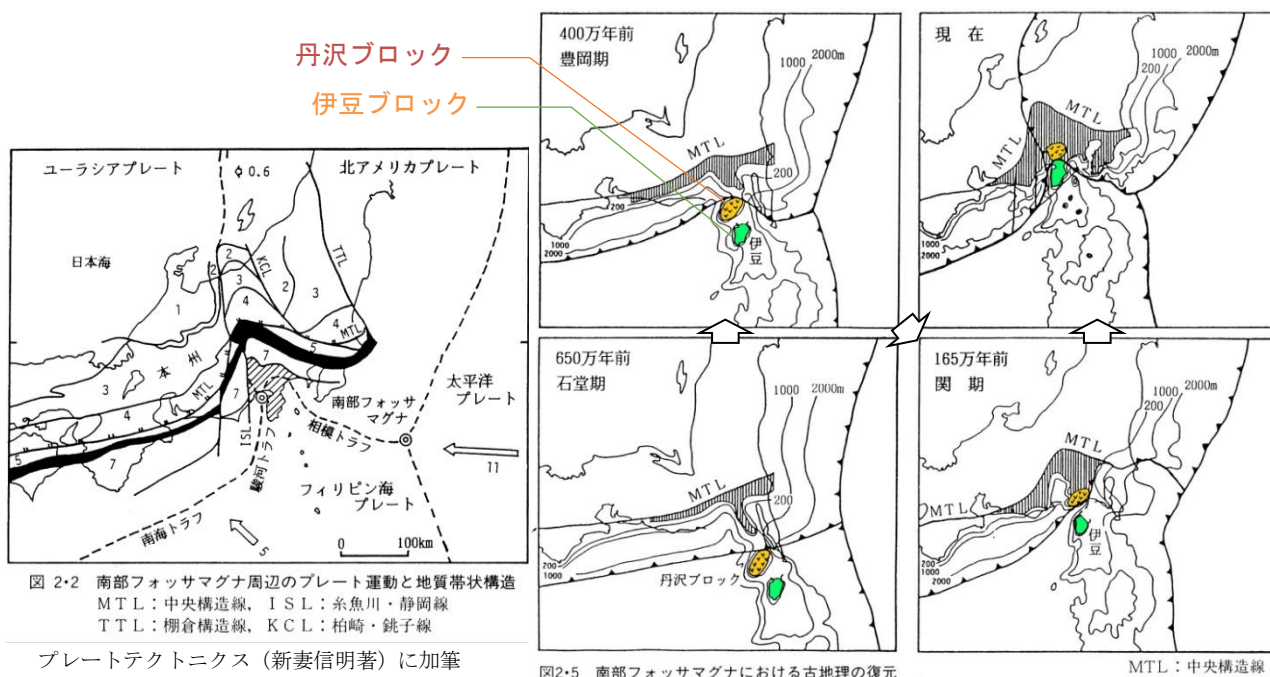


ミノカサゴ

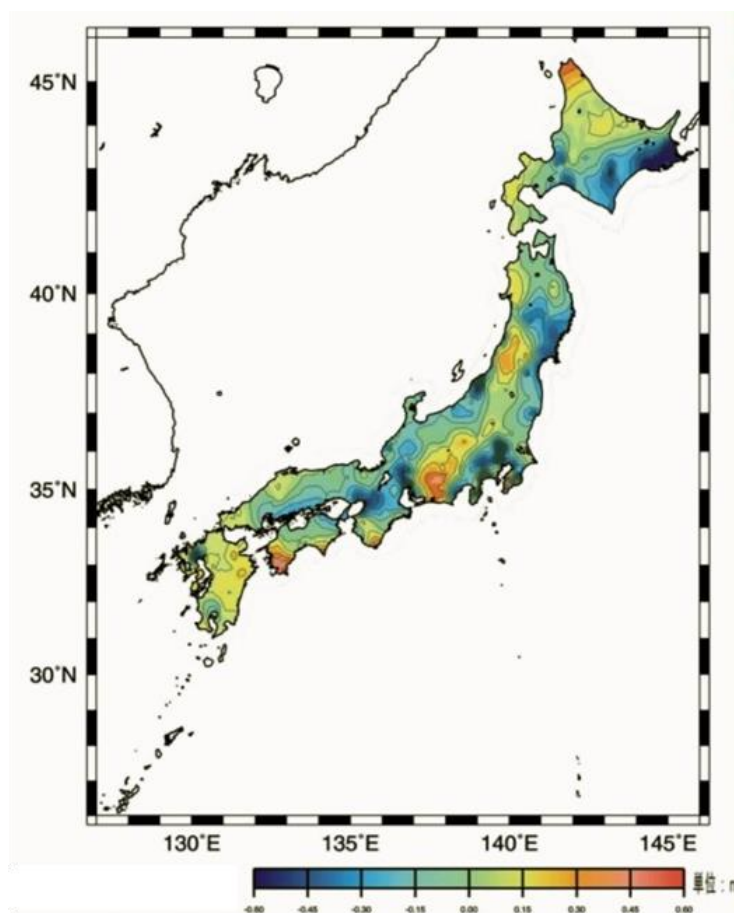
B-2 地質概要

伊豆半島ジオパークは、フィリピン海プレート上にあった南洋の海底火山（海山島）の北上と本州への衝突や、関連した多様な火山活動と地殻変動などによって特徴づけられる。世界でも類を見ない活動的島弧どうしの衝突の場である伊豆半島は、その特異な成り立ちを反映した自然景観や文化、生態系を有する「南から来た火山の贈りもの」である。

伊豆・小笠原弧の北端に位置する伊豆半島は、フィリピン海プレートの北上に伴い本州に衝突した異地性地塊である。本地域では、約 100 万年前の伊豆半島の衝突に先立ち、500～600 万年前には丹沢地塊が本州に衝突している。さらにそれ以前にも、別の地塊（御坂地塊・楡形山地塊）が衝突したと考えられている。こうした島弧の「多重衝突」の場としての伊豆とその周辺地域は、プレート運動そのものだけでなく、大陸地殻形成過程や日本列島の地質構造の大規模な変形、海底火山噴出物の堆積過程など、多くの研究が精力的に行われてきた。伊豆は、この多重衝突の現場において、現在も衝突が継続している地域であり、ダイナミックな地球のうごきの一端を垣間見ることができる場所である。



本地域で生じてきた地塊の多重衝突は、本州中央部を特徴づける地質の帯状構造の屈曲や構造回転、隆起など、地質構造や地形に大きな影響をもたらしている。



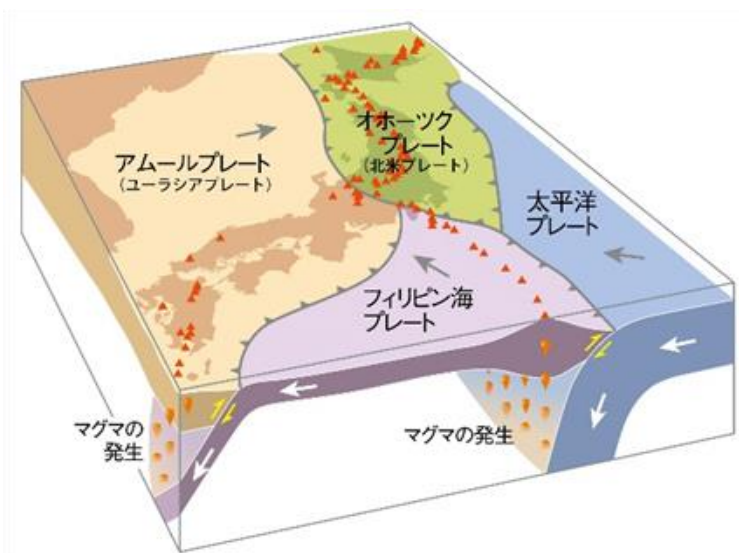


図 10 日本列島周辺のプレートと伊豆半島の位置

図 11 に伊豆半島の地史の概略を示す。

現在の伊豆半島の陸上では約 2000 万年前から現在（新第三紀～第四紀）までの火山岩を主体とする地層が確認されている。

約 200 万年前以前の地層の大部分は、海底で噴出した火山岩類とその二次堆積物、貫入岩類（仁科層群・湯ヶ島層群・白浜層群）からなる。これら水底堆積した地層に残された化石や古地磁気の記録は、当時の伊豆地塊が現在よりも低緯度にあったことを示している。

200～100 万年前になると、本州への衝突と隆起に伴って、水底堆積を示す地層が姿を消していく。中伊豆の一部に分布する砂泥層（熱海層群下部）も約 60 万年前には堆積を終え、伊豆半島全体が陸化した。これ以降は陸上の火山噴出物が主体となる。

陸化した伊豆では、約 20 万年前まで、天城山等の大型成層火山を形づくる噴火が続いた。これらの大型成層火山は現在の伊豆半島の高地部分を作り、最高地点は万三郎岳（天城火山の一部）の 1405m である。

これらの大型成層火山の活動が終わると、約 15 万年前以降は火山活動の性質が大きく変わり、独立単成火山群である伊豆東部火山群が噴火をはじめ、現在に至っている。伊豆東部火山群の最新の噴火は 1989 年 7 月に伊東沖の海底噴火で、この地域ではその後もマグマの貫入に伴う群発地震や地殻変動が継続している。また、フィリピン海プレートは現在も伊豆を本州に押し込んでおり、丹那断層や石廊崎断層などの活断層の活動も活発である。



図 11 伊豆半島の地史

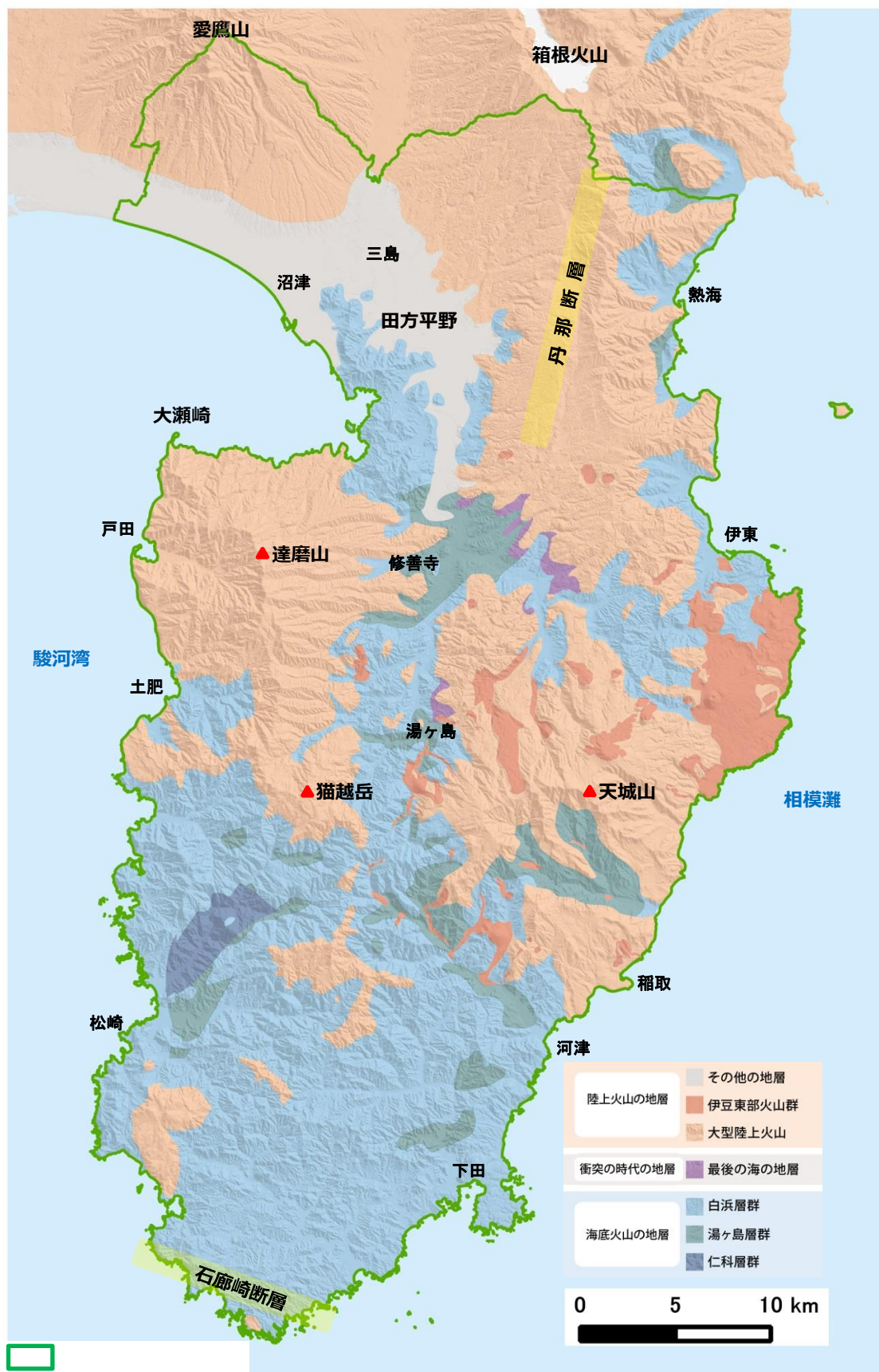


図 12 伊豆半島の地質

B-3 主なジオサイトの記載

B-3-i ジオサイトの設定と管理

伊豆半島ジオパークにおけるジオサイトは、ひとまとまりのストーリーを構成できる、ある一連の事物をまとめた範囲を示す。ひとつのジオサイト内には複数のジオポイントを配し見学箇所として整理した。また、利用者の移動（1日で移動できる程度の範囲）や、管理上の利便性を考慮して、複数のジオサイトをまとめた「エリア」を設定している。「エリア」は、分水嶺などの地形的な障壁により区分し、11エリアを設定している。

現在、114か所のジオサイトと313か所のジオポイントが設定されている。これらジオポイントの中には見学をするうえで十分な安全性が確保されていない箇所や、立ち入りが制限されている箇所も含まれている。ジオツアーを行う際に、これらの箇所を使うことは適切ではない場合もあるが、ジオパークエリア内の学術上貴重な箇所を把握・管理するために、ジオポイントのリストに登録している。このため、想定される見学対象者と、ジオポイントの内容・現状をふまえ、表4のとおり用途種別を設定した。

表 4 ジオポイントの種別と内容

ジオポイント の用途種別	内容	箇所数
一般向け	一般の観光客、住民、学習者、研究者のすべてを対象とする箇所。 立ち入りが容易で、伊豆半島ジオパークのストーリーをわかりやすく感じられる箇所。Web サイトやパンフレット等で情報発信を行い、主な箇所については解説看板整備等を進める。	159 箇所
限定利用	一般の観光客、住民、学習者、研究者のすべてを対象とする箇所。 民有地や、立ち入りに危険が伴う箇所など、通常は立ち入りができないが、一般向けのジオポイントとして価値のある箇所。ガイドによるジオツアー等で適切な安全管理や許可のもと利用する。	27 箇所
学習向け	地形地質に興味を持つ学習者や研究者向け。立ち入りは容易だが、内容が必ずしも一般向け（ジオツアー向け）でない箇所。必要に応じて、詳細な解説書に記載したり、個別に問い合わせ対応したりする。	105 箇所
研究向け	主に研究者向け。学術的に貴重だが、立ち入りが困難で内容も難解なもの。 研究者や専門家からの依頼に応じてのみ案内する。	22 箇所
		合計 313 箇所

これら多数のジオサイト/ジオポイントを管理するため、GIS データとして整理している。見学者の安全に配慮し、このデータベース全体は非公開としているが、工事等によるジオサイト/ジオポイントの消失を防ぐことなどを目的とし、工事発注を行う公的機関等などへは GIS データを提供している。

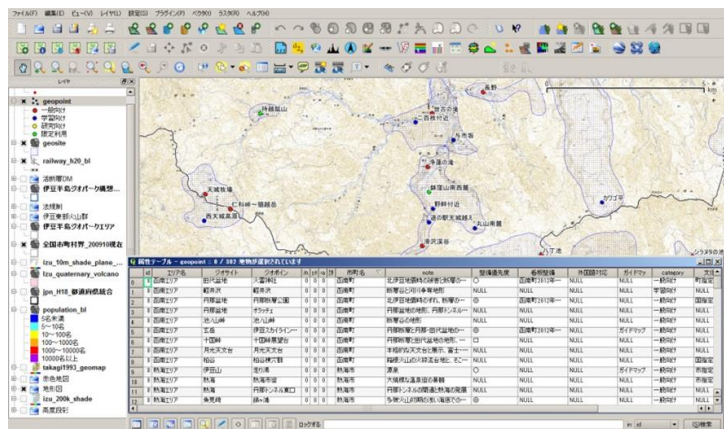


図 13 ジオサイト/ジオポイント管理のためのデータベース

B-3-ii ジオサイトの記載

ジオサイトの一覧は付録に示し、ここでは主要なジオサイトとその紹介をする。

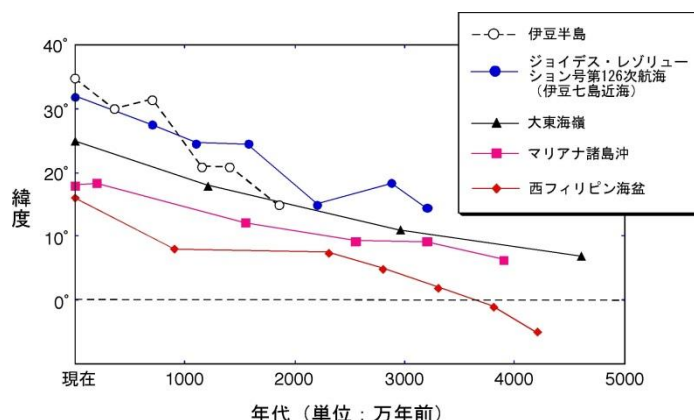
伊豆半島ジオパークでは「南から来た火山の贈りもの」として、伊豆半島の成り立ちを主としたテーマを設定している。このテーマの下には、伊豆半島形成の各地質時代のストーリーや、大地と人々のかかわりを主題として、5つのサブテーマ（（1）本州に衝突した南洋の火山島、（2）海底火山群としてのルーツ、（3）陸化後に並び立つ大型火山群、（4）生きている伊豆の大地、（5）変動する大地とともに生きてきた人々の知恵と文化）を設定している。ここでは、各サブテーマに沿って主要なジオサイトを紹介する。

a) 本州に衝突した南洋の火山島 — 移動と衝突を語る各種の証拠 —

伊豆半島の大きな特徴として、その起源はそもそも日本にはなく、南洋で生まれた火山の集合体がフィリピン海プレートの北上に伴い、本州に衝突して半島が形成されたことがあげられる。

この伊豆の移動と本州への衝突を物語る証拠としては、古地磁気の変化や生物化石がある。古地磁気をもとにした伊豆地塊の緯度の変化は伊豆の北上を物語る（右図）

が、肉眼で観察することはできない。一方、直接見たり触れたりできる証拠として、伊豆市下白岩、下田市白浜、河津町梨本などの生物化石を産出する石灰岩や石灰質砂岩が知られている。



ジオサイト：下白岩・加殿		中伊豆北エリア
サブテーマ：本州に衝突した南洋の火山島		種別：一般向け
ジオポイント：下白岩		
伊豆半島の北上を示す直接的な証拠として、生物化石があげられる。 伊豆市下白岩周辺では、東に 30～40° 傾斜した石灰質砂岩中から、1100 万年前の南洋で暮らしていた生物群（有孔虫・サンゴ・ウニ骨針・貝殻破片など）の化石が大量に産出される。この頃、日本（現在の関東周辺）では寒冷な気候となっていたため、このような南洋の生物化石は伊豆半島でのみ見つかる。 日本付近が寒かった時代に、伊豆半島でのみ南洋の化石が見つかるということは、そのころの伊豆半島が日本から離れた南洋にあったことを示す直接的な証拠となっている。		 下白岩の石灰質砂岩

下白岩の有孔虫化石は、静岡県指定の天然記念物に指定されている。有孔虫としては大型な直径 5mm 程度の化石が多数含まれているため、肉眼でも観察でき、伊豆半島の北上やプレートテクトニクスについての理解を深めるための重要なジオサイトである。



下白岩で産出する生物化石

また、伊豆半島内で本州との衝突を実感できる場所として、衝突の進行によるプレートの沈み込みとともに深海化し、やがて離水した「最後の海」の堆積物があげられる。最後の海は、伊豆市の城（じょう）や筏場といった狭い地域に分布する、泥や砂礫層である。全体が火山活動の結果、形作られている伊豆半島においては、このような泥や砂礫からなる地層は珍しい。

ジオサイト：横山・梅木	中伊豆北エリア
サブテーマ：本州に衝突した南洋の火山島	種別：学習向け
伊豆市にある横山・梅木ジオサイトでは、伊豆と本州の間にあった海が、狭くなり消滅していく過程で堆積した泥や砂礫層を観察することができる。この地層の中には、120 万年ほど前の海で暮らしていた生物の化石が含まれている。ほとんどが火山噴出物とその二次堆積物からなる伊豆半島では、このような砂礫層は珍しい。 本地域の地層の堆積以降、伊豆半島内には海に起源をもつ地層が見られなくなり、すべてが陸上火山の噴出物となる。このことは、100 万年前頃に伊豆の「最後の海」が消滅し、伊豆全域の陸化が完了したことを物語っている。	 横山シルト岩

b) 海底火山群としてのルーツ ―各所に残る海底噴火の証拠と火山の根―

およそ 200 万年より前、伊豆地塊の多くの部分が海底火山であった。海底火山の堆積物は、本州への衝突に伴う伊豆全体の隆起・陸化により、美しい海岸線やダイナミックな溶岩地形として地表で直接観察できる。これら伊豆半島の基盤となる地層は、古いものから、仁科層群→湯ヶ島層群→白浜層群に区分されている。

仁科層群は、西伊豆町を流れる仁科川の中流から下流の谷沿いに分布する。仁科層群は中新世前期の火山砕屑物を主体としており、水底溶岩や水底土石流として観察される。仁科層群中の火山岩には玄武岩質の枕状溶岩が見られ、水底堆積であることを示す。

ジオサイト：仁科川・宝蔵院		西伊豆エリア
サブテーマ：海底火山群としてのルーツ		種別：一般向け
ジオポイント：一色		
西伊豆町一色では、伊豆半島内で確認されている最も古い地層である仁科層群中に溶岩流の水底堆積を示す枕状溶岩が観察され、伊豆半島のルーツを知るために欠かせないジオサイトになっている。枕状溶岩は熱水変質をうけた緑灰色の無斑晶質玄武岩の直径 30～80cm 程度のチューブからなる。緑泥石をはじめとする鉱物が玄武岩中の気泡を充填した杏仁状構造を有することが多く、その特徴的な模様のため、温泉宿の湯船や洗い場の敷石として利用されることがある。また、本地点では、枕状溶岩を切る岩脈も観察できる。		

一色の枕状溶岩

一色の枕状溶岩

湯ヶ島層群は、主として伊豆半島中央部の谷筋に沿って分布する。中新世前期から中期の火山砕屑物が主体で、タービダイト等の深海底での堆積構造が観察される。熱水変質を受けている場合が多く、変質帯には土肥・清越・持越・縄地など、かつて盛んに採掘された鉱山が分布する。

ジオサイト：日向		中伊豆北エリア
サブテーマ：海底火山群としてのルーツ		種別：学習向け
ジオポイント：梶山のタービダイト		
典型的なタービダイトは伊豆市大平の狩野川や大見川に沿った低地に分布する湯ヶ島層群中に見られる。伊豆市大平の狩野川沿いに整備されたキャンプ場対岸に露出する火山灰タービダイトは、粒径の違いに起因する差別浸食により層理面が明瞭であり、級化層理等の特徴的な堆積構造が認められる。		
		狩野川右岸に露頭するタービダイト

狩野川右岸に露頭するタービダイト

白浜層群は、伊豆半島の広い範囲に分布しており、伊豆の土台をつくる地層ともいえる。中新世後期から鮮新世の湯ヶ島層群を覆う火山砕屑物を主体とした地層群である。火山砕屑物からなる点は、湯ヶ島層群と同じであるが、斜交層理が発達する凝灰質砂岩には浅海性の化石が含まれており、浅い海で堆積したことがわかる。このことは、伊豆地塊の北上に伴い、徐々に本州と伊豆の間の海が狭く浅くなってきたことを示している。

白浜層群は伊豆半島の広い地域に分布するが、特に海岸沿いでは、波浪浸食により常に新鮮な断面が露出し、美しい海岸線を作り出している。

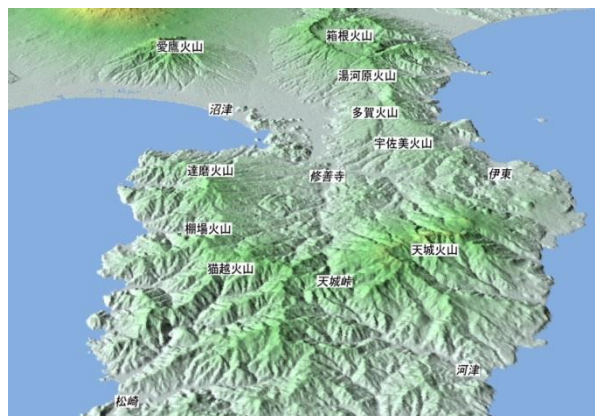
ジオサイト：堂ヶ島・仁科港	西伊豆エリア
サブテーマ：海底火山群としてのルーツ	種別：一般向け
西伊豆町の堂ヶ島周辺は、海底火山の噴火に伴う水底土石流や、その上に降り積もった軽石・火山灰層、水冷破碎溶岩が海岸線に沿って分布している。海底火山の活動推移を連続的に観察でき、海底火山研究の場としても多く取り上げられてきた。	 斜交層理の発達した白い凝灰岩の崖が美しい  水底土石流は凝灰岩層に漸移する
ジオポイント：堂ヶ島海岸南 堂ヶ島海岸南部では、斜交層理が発達した凝灰岩とその下位に漸移する水底土石流層が観察される。水底土石流は、全体として級化構造が見られ、水底土石流中の礫を用いた段階熱消磁実験からは、$450\sim 500^{\circ}$ の定置温度が推定されている。水底土石流の最上部はそのままトラフ型を主体とした斜交層理の発達した凝灰岩層に漸移し、一連の活動であったことが示唆される。また、これらの地層内には、急冷縁を有する火山弾も含まれており、激しい海底火山の活動の様子を描き出している。国指定の名勝でもある伊豆西南西海岸の多くが、このような海底火山の活動で成立していることを示す絶好のジオポイントである。 また、これらの水底堆積した火山噴出物には、海食洞が形成されており、遊覧船で海食洞内に入り、洞内にできた「天窗」を楽しむことができる。	

白浜層群や湯ヶ島層群中には、陸化した後の浸食によって露出した、火山岩頸が各地で見られる。火山岩頸からなる山地は、急峻な岩体からなり、柱状節理が観察できることが多い。

ジオサイト：岩地・石部・雲見	西伊豆エリア
サブテーマ：海底火山群としてのルーツ	種別：一般向け
ジオポイント：千貫門 国の名勝、伊豆西南海岸の南部には、大規模な貫入岩体からなる迫力ある海岸線が続く。千貫門はこれら貫入岩体の一部で、貫通した海食洞が門のような形を作り出している。この美しい門は「値千貫」の価値があるとされ、この名称になっている。 千貫門には複雑な柱状節理が発達しており、マグマの通り道であったことを示す。堂ヶ島から出る遊覧船や、松崎ジオサイトクルーズでは、千貫門のすぐそばまで船で近づくことができ、迫力ある景観を楽しむことができる。また、伊豆の西海岸に位置する千貫門は、夕日が美しく、写真撮影ポイントとしても有名。	

c) 陸化後に並び立つ大型火山群 —伊豆の地形の屋台骨をつくる大型火山群—

伊豆地塊の本州への衝突に伴う、伊豆全体の陸化が生じた後には、天城山や達磨山などの大型の成層火山が噴火を始め、一時は標高 2000m 近くに及んだであろう山脈を形成したと考えられる。こうした大型の陸上火山群は、およそ 20 万年前までには噴火を終え、その後の浸食により山頂部分を含む山体の大半が失われたが、伊豆スカイラインの走る尾根から天城連山を経て、猫越岳から達磨山に至る現在の伊豆半島の屋台骨とも言える山並みに、かつての壮大な容姿の面影が残されている。



ジオサイト：魚見崎	熱海エリア
サブテーマ：陸化後に並び立つ大型火山群	種別：一般向け
ジオポイント： 錦ヶ浦 魚見崎の切り立った海岸は多賀火山（80～30 万年前）が浸食されて露出した場所で、多賀火山の活動初期の噴出物が観察できる。 本地点の堆積物は水蒸気マグマ噴火によって生じた角礫層があることから、陸上の噴出物が大部分を占める多賀火山も、その生い立ちは浅い海底から始まったことがわかる貴重な場所である。 周辺には海岸の崖にへばりつくようにホテルや観光施設が建てられているため、その敷地内のいたる所から噴出物や地形を間近に観察できる。また、崖下の波食台の一部は、ホテルの建物や波打ち際の露天風呂の基礎として利用されており、「ジオ」と人間社会が見事に調和・融合した例でもある。	 錦ヶ浦  岸壁に建設された宿泊施設

この時代に活動した大型火山群がつくった緩やかな山腹や裾野は、中伊豆・北伊豆地域を中心として今も各所に残り、雄大な高原として観光や畑作・畜産などに利用され続けている。

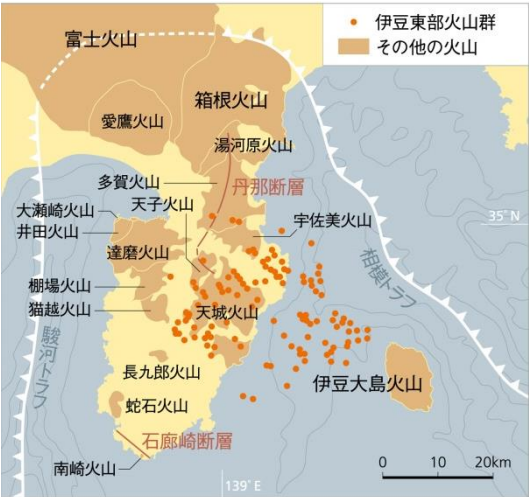
d) 生きている伊豆の大地

本州と陸続きになり、さらには大型の火山群が活動を終えた現在も、プレート運動は伊豆の大地を本州に押し込み続けている。さらに、太平洋プレート沈み込み帯の火山フロント付近に位置する伊豆半島は、活発な火山活動が続く場所でもある。

多種多様の地形と造形をもたらし現在も活動中の小火山の集合体・伊豆東部火山群

約 15 万年前から始まった火山活動は、伊豆半島のこれまでの火山活動とは大きく姿を変えた。伊豆半島の中～東部にかけての陸上と、伊豆半島と伊豆大島間の海底に広がる独立単成火山群、伊豆東部火山群である。独立単成火山群は、圧縮応力場で成長する火山が多い日本においては、まれな事例であり、活火山としては、伊豆東部火山群以外には、阿武火山群（山口県）と福江火山群（長崎県）のみである。

この火山群の形は、スコリア丘、マール、溶岩ドームといった多様な火山地形をつくり出している。また、溶岩流は急峻な谷底に、あるいは海に流れ込み、平坦な大地をつくり出してきた。これらの新鮮な火山地形は、伊豆半島各地に美しい景観をつくり出している。

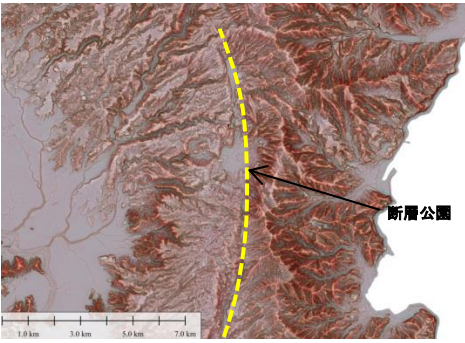


ジオサイト：大室山		伊東エリア
サブテーマ：生きている伊豆の大地		種別：一般向け
ジオポイント：大室山		
大室山は、約 4000 年前の噴火で作られた伊豆東部火山群で最大のスコリア丘である。山頂からは伊東市内に分布する多くの火山やそれらの噴出物がつくった地形を眺望でき、単成火山群の広がりを感じることができるジオサイトである。 大室山の噴火では大量の溶岩が流れ出し、噴火前にあった地形の凹凸を埋め立て、なだらかな伊豆高原つくり出した。また、相模湾に達した溶岩は風光明媚な城ヶ崎海岸となっている。スコリア丘からの溶岩流出は山麓から生じた。溶岩を流出した火口は、噴火の溶岩流出の最後期に粘性が高くなり、流出口には溶岩ドームが形成された。 大室山は、毎年行われてきた山焼きによって、お椀を伏せたような美しい山の形が保たれており、山全体が国の天然記念物に指定されている。		 大室山スコリア丘  山頂からの景観

ジオサイト：河津七滝	河津・東伊豆エリア
サブテーマ：生きている伊豆の大地	種別：一般向け
伊豆東部火山群の溶岩流は、各地に美しい滝をつくり出している。河津町の河津七滝^{ななだる}もそのひとつである。 およそ 2 万 5000 年前に天城山南西斜面で生じた「登り尾南火山」の噴火による溶岩は、河津川の谷間を埋めながらさらに 2km ほど流下した。この溶岩にできた段差には、7つの滝がかかっており、これが有名な河津七滝である。上流から順に、釜滝、えび滝、へび滝、初景滝、かに滝、出合滝、大滝と呼ばれている。これらの滝には、溶岩が冷え固まる際に収縮してできた美しい柱状節理が刻まれており、滝によって異なる柱状節理の形状がダイナミックな景観を作り出している。 河津七滝は、井上靖「伊豆の踊子」の舞台のひとつにもなっており、踊り子の旅をなぞるハイカーも多く訪れる場所でもある。 伊豆東部火山群の溶岩にかかる滝は、河津七滝の他にも、浄蓮の滝や滑沢溪谷など多数あり、風光明媚な景観は、小説や映画の舞台になっていることも多い。	 釜滝（かまだる）  初景滝付近の柱状節理

地殻変動と活断層によって姿を変えゆく大地

本州との衝突後も、伊豆の大地は本州を北西方向へと押し続け、本州側に大きな変形を与えるとともに、伊豆半島内部でも各種の変動地形を形成している。さまざまな変動地形のなかで、もっとも明瞭な証拠を残しやすいものが断層活動である。伊豆には、丹那断層と石廊崎断層に代表される数多くの活断層の分布が知られており、大地の雄大な動きを実感することができる。

ジオサイト：丹那盆地	函南エリア
サブテーマ：生きている伊豆の大地	種別：一般向け
ジオポイント： 丹那断層公園 1930 年 11 月 26 日未明、北伊豆地方を大きな地震が襲った。北伊豆地震（マグニチュード 7.3）である。北伊豆地震にともなって、丹那断層とその南西延長、さらにその南東側の姫之湯断層に、場所によっては 2m を越える横ずれが生じた。丹那断層公園に保存された横ずれは、国の天然記念物に指定されている。 過去繰り返し生じた丹那断層のずれは、水平方向に約 1km 以上、上下方向に約 100m にもおよぶ。この左横ずれ断層によって生じた地形は、世界に先駆けて丹那断層で調査され、世界的にも著名な断層である。	 丹那断層（部分）

北伊豆地震で生じた横ずれは、当時丹那盆地の地下で掘り進められていた丹那トンネルの工事現場も直撃した。このトンネル工事により、湧水が豊富でワサビ栽培等も盛んであった丹那地方が、湧水に悩まされ、当時の鉄道省の補償によって酪農地帯に生まれ変わったという歴史ももつ。



北伊豆地震で生じた横ずれ

e) 変動する大地と共に生きてきた人々の知恵と文化

このような特異な成り立ちをもつ伊豆半島に暮らす人々が築き上げてきた地域社会が5つ目のサブテーマである。

地形・噴出物・鉱床・地熱・水の利用と活用

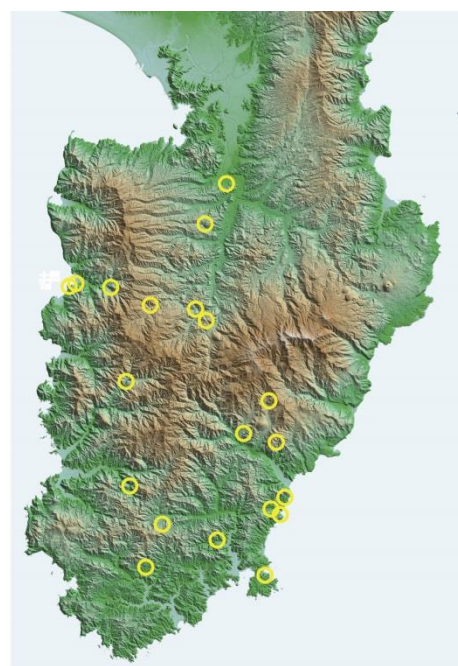
伊豆は南洋で生まれた海底火山の集合体が本州に衝突・隆起して半島化したものであり、現在も火山活動と地殻変動・地震活動が続いている。伊豆の大地はまだ激しい浸食の途上にあり、山がちな地形である上に、多くの海岸線も急な崖となっている。また、岩石の風化が進んでおらず、表土の薄い場所が多い。こうした事情が、温暖・多雨の気候とあいまって伊豆独特の植生をもたらしている。

一方で、空隙の多い火山噴出物内に蓄えられた大量の地下水が各地で湧き出している。地下水の一部は、高い地熱によって温められ、各地で温泉として湧き出している。温泉熱を利用した特産品栽培もおこなわれている。また、地熱や温泉は熱水鉱床を作り出し、かつては多くの金山などが分布した。

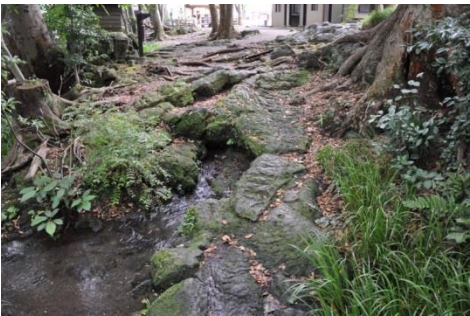
こうした地学的な状況や産物は、古来より伊豆に生きる人々の生活の糧として利用されてきた。伊豆の地形は険しいが、火山噴出物が山地の谷間を埋めたり、海に流入して土地を増やしたために、そうした平坦な土地が住居や農地・牧場として利用され、最近はゴルフ場などのレジャー施設にも使われている。また、険しい海岸線の風光明媚な地形や崖に見られる美しい地層、岩石も、古くから観光資源として利用されてきた。



温泉熱を利用したメロン栽培



伊豆の主な金銀鉱山跡

ジオサイト：三島		沼津・三島エリア
サブテーマ：変動する大地と共に生きてきた人々の知恵と文化		種別：一般利用
ジオポイント：菰池・白滝公園		
伊豆半島ジオパークエリアの最北端に位置する三島市は、富士山東麓と南に流れる黄瀬川の扇状地上に立地する。この扇状地からの土砂は、伊豆で唯一の田方平野を形成する。 三島市には約1万年前の富士山の噴火による溶岩（三島溶岩）が分布しており、この溶岩に涵養された地下水が市内各所で湧き出し、小川の多い独特な街並みの景観と文化を築いてきた。三島の名物であるうなぎは、この湧水にさらし、余分な脂肪や泥を抜いてから食される。		

火山の噴出物には良質な石材となるものも多く、近代以前から「伊豆石」として数多くの採石場がつくられてきた。

ジオサイト：岩地・石部・雲見		西伊豆エリア
サブテーマ：変動する大地と共に生きてきた人々の知恵と文化		種別：一般向け
ジオポイント：室岩洞		 手掘り採石のため、多くのノミ跡が残る凝灰岩の壁面には火山弾なども含まれる
伊豆半島で採取される石材は古くから「伊豆石」として使われてきた。伊豆石には、陸上火山の溶岩流や貫入岩体といった堅牢な「伊豆硬石」と、白浜層群に代表される凝灰岩質の「伊豆軟石」に分けられる。 室岩洞は、江戸時代の末期まで採石されていた伊豆軟石の採取地の一つである。ここで採石された石材は、周辺地域だけでなく、東京品川にあるお台場砲台構築に用いられたという記録が残っている。伊豆軟石の砕石場（石丁場）は伊豆半島各地にあるが、観光用に整備されているのは、本ジオポイントのみである。		

防災・減災への先進的取り組み

伊豆の大地は住民に大きな恵みをもたらしてきた一方で、厳しい試練も課してきた。地形が険しく雨が多いことは、土砂災害や水害の発生しやすさを意味する。最近の大規模なものとしては、1958年狩野川台風による中伊豆・北伊豆を中心とした土砂・洪水災害がある。また、現在も進行中のプレート運動や断層活動を反映して、伊豆は被害地震の起きやすい場所でもある。その例として、丹那断層の活動による1930年北伊豆地震や、石廊崎断層の活動による1974年伊豆半島沖地震が挙げられる。さらに、伊豆をはさむ駿河湾と相模灘はプレート境界型の巨大地震である東海地震と関東地震が繰り返されてきた場所であり、その揺れと津波が伊豆をたびたび襲ってきた。伊豆の陸上や近海では、時おり火山噴火も生じてきた。その最新のものが1989年伊東沖海底噴

火である。噴火はごく小規模であったが、社会に与えた影響は甚大であった。噴火を起こしたマダマは今も生きており、たびたび群発地震を起こしている。

自然災害に対する、防災・減災の取り組みも当ジオパークの特徴のひとつである。水害や津波に対する防災施設、各地に残る災害遺構をジオサイトに設定し、自然景観を楽しむとともに、自然景観をつくり出した災害に対し、防災・減災に取り組んできた人々の知恵を知るきっかけとする。

ジオサイト： 伊豆長岡	中伊豆北エリア
サブテーマ：変動する大地と共に生きてきた人々の知恵と文化	種別：一般利用
ジオポイント：壱之上 狩野川は伊豆半島の第四紀火山や、箱根・富士山から大量の土砂が供給される河川であり、田方平野に住む人々は古くから水害に悩まされてきました。 狩野川放水路は、狩野川の狭窄部付近に 14 年の歳月をかけ作られた海へのバイパスであり、狩野川の増水時には 2,000m³/秒を本川から分流する能力をもつ。 本ジオポイントには国土交通省の資料館があり、狩野川の自然環境や水害の歴史についても学ぶことができる。	 本川側のトンネル入り口

大地と信仰

自然災害は、地域の信仰にも大きな影響を与えている。伊豆一の宮である三嶋大社の祭神である三嶋大明神（大山祇命）は、伊豆半島や周辺地域の火山とゆかりのある神で、大きな噴火のたびに神格を高めてきたとされている。また、伊豆半島の沿岸部を中心に、火山島である伊豆諸島の神々を祀る神社が多く分布している。現在、調査は不十分であるが、これらの神々の一部は、伊豆諸島の噴火を鎮めるために半島内に祀られた神々であると考えられている。こうした信仰の姿は、人々が大地の恵みを受けつつ、畏れをもって自然とともにくらしてきた証とも言える。

また、周囲を海に囲まれる伊豆半島は、海上交通の要衝でもあり、交通や漁の安全を願う祭祀遺跡や神社、石仏などが、海岸沿いの海食洞や岬などに多く見られる。

ジオサイト： 白浜	下田エリア
サブテーマ：変動する大地と共に生きてきた人々の知恵と文化	種別：一般利用
ジオポイント：白濱神社 伊豆諸島を望む白浜海岸（下田市）の白濱神社には、神社裏手の海岸に三宅島を向いた鳥居が建っている。これは、三宅島の噴火をうけ、三嶋大明神の後神である「伊古奈比咩命」を白濱神社に迎え、明神としたためとされている。毎年 10 月に行われる白濱神社の例大祭では、祭りの始まりを伊豆諸島の神々に告げる「火達祭」などの儀式が執り行われる。	 三宅島を向く白浜神社の鳥居

B-4 ジオサイトの国際・国内・地域的価値

プレートの沈み込みに伴う火山島と本州の衝突が、伊豆半島ジオパークの重要なストーリーのひとつである。こうした起源をもつ地層や地塊は日本の他地域にも知られているが、いずれも伊豆半島に比べ時代がはるかに古いものである。約 1500 万年前の日本海拡大以降に限定すれば、日本列島に衝突した地塊は、伊豆の他には 600 万年前ころに衝突した丹沢山塊のみである。また、活動的火山弧どうしの衝突の場合は、世界の中で伊豆半島のみであり、多くの国際的な研究がなされている。

火山を主なテーマとしたジオパークは国内外に複数ある。日本国内のジオパークで気象庁が定義する活火山を有するジオパークとして、洞爺湖有珠山（有珠山）、糸魚川（焼山）、島原半島（雲仙岳）、磐梯山（磐梯山）、箱根（箱根）、伊豆大島（伊豆大島）、白山手取川（白山）、阿蘇（阿蘇）、霧島（霧島）、桜島・錦江湾（桜島）があげられる。また、活火山に含まれない第四紀火山や、第三紀の火山岩を含むジオパークも多い。

伊豆半島では、第三紀の海底火山噴出物、第四紀の陸上成層火山、15 万年前から現在まで活動を続ける伊豆東部火山群と、複数の時代に活動した多様な形態の火山をテーマとしている。活火山である伊豆東部火山群は新鮮な火山地形や噴出物など、古い海底火山は火山岩頸や岩脈といった火山の地下構造など、時代や環境の異なる火山体はさまざまな火山の姿を見せる。水底堆積した海底火山噴出物から、陸上堆積した火山噴出物への移り変わりを連続して観察することができ、火山の観察からプレート運動によるダイナミックな地殻変動について知ることできる。伊豆半島ジオパークでは、これら火山の姿を有機的に結び付け、楽しむことができる。

また、伊豆東部火山群は、国内では事例の少ない独立単成火山群である。国内では独立単成火山群を含むジオパークは現時点では当地域のみである（ドイツのブルカンアイフェルジオパークが独立単成火山をテーマとしている）。

さらには、衝突する火山島である伊豆半島は、断層活動等の地殻変動も活発である。火山活動も地殻変動も、ともに、伊豆半島の北上と衝突という一貫したストーリーの中で理解できることは、伊豆半島ジオパークの特徴である。

こうした国際的・国内的価値を有するジオサイトについて知することは、これまで観光等に自然景観を利用してきた地域住民にとって、新たな価値の発見であるとともに、大地の活動と関連した歴史文化や信仰などを通じて、自然災害などに関する理解を深めるきっかけにもなる。

C. 地質の保全

C-1 申請地域の抱える課題

当地域は首都圏に近いため、大規模な都市開発の圧力がジオサイトや地質遺産の一部にかかってきた。山や海をはじめ、地域の生態系や景観にも開発の影響が及ぼされたのは事実である。首都圏の人口増大による影響、特に観光開発(マストツーリズム)による影響もあるため、ジオパークでは自然への影響の少ない観光や地域の地質保全に積極的に取り組まなければならない。

C-2 申請地のジオサイトの保全に関する仕組み

社会生態系(ジオ)システム

地質・自然遺産の評価

地元文化・伝統的生活様式の評価

Monitoring

調査研究

学術研究

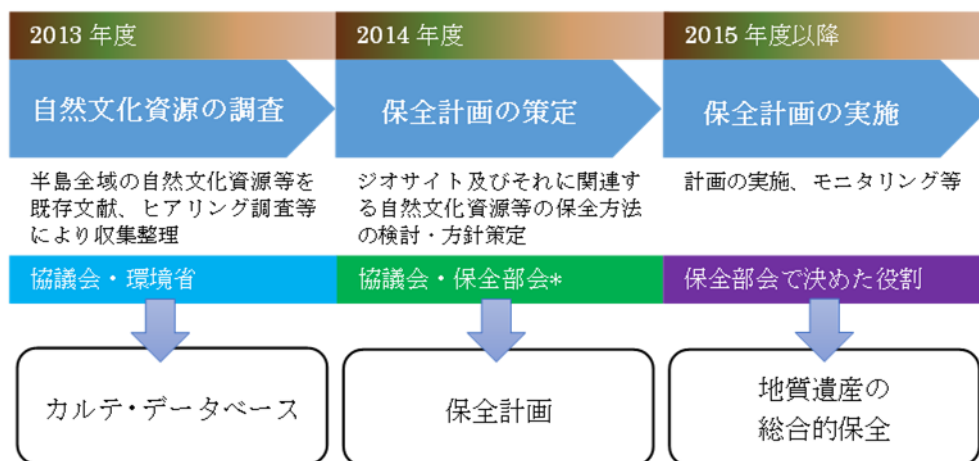
プランづくり

実行例

行政や住民が計画的に保護、保全を実行するには、保全や活用のための計画策定が必要である。当ジオパークでは2014年度に保全計画の策定を予定している。学術調査・研究による知識や地域の課題、取り組みなどのフィードバックを常に受けられる柔軟性をもった計画にし、地域住民や研究者、行政等が各段階で主体となって活動できる「順応的ガバナンス」の考え方で取り組む予定である。

[illegible]

26



*保全部会は環境省、地域住民、ステークスホルダーなどから構成する。

図 17 保全に関する現状とこれからの取組

C-3 ジオサイトの維持管理の現状及び事例、データ

当ジオパークにおけるジオサイトの維持管理・保全の現状や事例・データについて、法令等による規制、自然再生・結果的保全、ジオパーク・その他の活動の3つの種別に分類し、紹介する。



図 18 ジオサイトの維持管理・保全の現状の種別

C-3-i 法令等による規制－自然公園法、文化財保護法、条例等による保全

伊豆半島ジオパークは、自然公園法に基づく富士箱根伊豆国立公園の伊豆半島地域（22km²）を含む。

同地域は主に固有種やブナ林などの貴重な生態系が残る天城山などの山稜部と海岸線からなり、ジオポイント 313 箇所のうち、国立公園として保護されているポイントは 132 箇所ある。このうち特別地域内は 110 箇所、特別保護地区内のポイントは 1 箇所（八丁池）である（詳細はジオポイントリストを参照）。国立公園内では開発、工事、伐採等が制限されるなど強力な規制が働く。

また、文化財保護法・条例に基づく文化財は、ジオパーク内に国・県・市町指定を合計すると、750 以上存在する。うち 40 箇所はジオポイントであり、それ以外にも貴重な植物の群落等も天然記念物に指定されているケースが多い。その他、景観（下田・熱海・伊豆の国など）、屋外広告物（三島など）、環境（長泉など）の各条例や海岸保全基本計画、地域森林計画など各種法律に基づき県や市町が定める計画も有効な規制作用となっている。

表 5 申請地域の文化財登録件数

	国指定	県指定	市町指定	計
国宝	8	－	－	8
有形文化財	106	82	259	447
建造物	6	5	25	36
美術工芸品	100	77	234	411
無形文化財	0	0	0	0
民俗文化財	2	14	48	64
有形民俗文化財	2	3	10	15
無形民俗文化財	0	11	38	49
記念物	36	45	148	229
史跡	17	7	75	99
名勝	1	0	4	5
天然記念物	17	38	69	124
天然記念物名勝	1	0	0	1
合計	144	141	455	740

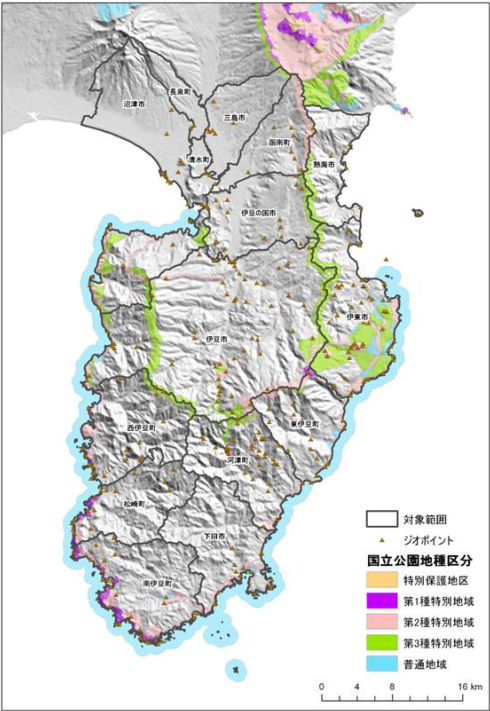


図 19 国立公園とジオポイント

C-3-ii 地域社会による自然再生及び結果的保全

地域社会においては、ジオパークという言葉が使われる以前より、自発的に行われてきた活動がある。ここでは、主に自然再生（環境回復）運動とコモンズの例を紹介する。

a) 自然再生への取り組み

一度悪化した景観や生態系を取り戻そうと、地道な努力と適切な方法により自然再生に取り組んでいる事例がある。地元社会の積極的な参加と基本方針によって守り支えられているこれらの活動は、「景観」や「生態系」という観点に立っており、結果的にジオダイバーシティの保全につながっている。その代表的な事例を表 6 に示す。

表 6 自然再生の取り組み事例

柿田川 (清水町)	富士山の湧水が形成する 1.2 キロの貴重な清流であり、独特の生態系を育んでいる。経済成長期には、工場の進出などによって川が環境が悪化してしまったが、その後 40 年間にわたる環境回復活動により、上記のような清流が再生した。この活動は、日本国内のナショナルトラスト運動の先駆けともなった「柿田川緑のトラスト委員会」（現：公益財団法人 柿田川緑のトラスト）が中心的な役割を担った。現在も、柿田川の自然再生をさらに進めるため、国土交通省沼津河川国道事務所は、「柿田川自然再生検討会」を設置し、2011 年度に「柿田川自然再生計画」を策定。有識者、保護団体などとの協力を通じた自然再生が行われている。
三島の湧水群 (三島市)	柿田川と同様、三島市の湧水群においても、熱心な地元住民や保護団体を中心となり精力的に自然再生活動をしている。NPO 法人グランドワーク三島や、三島ゆうすい会の活動が挙げられる。

石部の棚田 (松崎町)	東日本では珍しい石積みの棚田が約 370 枚、42000m ² にわたって広がる。高齢化が進む中、地元農業者が住民やボランティアの協力を得て、棚田の開墾、復田作業を行い、美しい景観を回復した。 棚田オーナー制度により首都圏や県外からの来訪者も多く、関連商品の開発にも積極的に取り組む。企業や大学生等との協働の輪も広がっており、「農林業を軸とした自然資源の管理・利用」の好事例として環境省にも評価されている。
----------------	---



柿田川とミシマバイカモ (清水町)



石部の棚田 (松崎町)



白滝公園の湧水 (三島市)

b) 結果的保全 (コモンズなど)

古来より伊豆の人々は自然資源の一部を共同で利用し、その資源と関係のある景観や生態系を維持管理してきた。その目的は、山焼きなどによる資源利用の場合もあれば、習俗や信仰の場合もある。このように、伝統的に守られてきた景観を一種のコモンズとして読み取ることができる。長い年月を経て現在に至るまで残された景観は、当ジオパークのジオサイト・ジオポイントの保全に貢献している。

表 7 伝統的に守られてきた景観の事例

ジオサイト名	内容
大室山 (伊東市)	約 4000 年前の噴火で誕生した日本最大級のスコリア丘では、約 700 年前から萱取のため定期的に山焼きが行われ、その結果、森林の育成が抑えられ、お椀を伏せたような形の美しい姿が保たれている。
三筋山 (細野高原・東伊豆町)	三筋山は、かつての大型陸上火山・天城山の一部を形成する。南東斜面の浸食（地すべり）によってできたなだらかな地形の細野高原は、秋にはススキが一面に広がる。大室山同様、昔からの山焼きにより森林の育成が抑えられているため、火山斜面の地形をよく観察できる。
海のコモンズ	伊豆半島は日本一深い駿河湾や生物多様性が豊かな相模湾に囲まれ、非常に多様な海洋生態系の恵みを受けている。漁業組合では、このような海の幸を持続可能に活用するため資源量調査や禁漁期間の設定などによる資源管理を行っている。
巨樹・巨木	伊豆半島には巨樹巨木が数多く残っている。古くから鎮守の森として守られてきた事例が多い。古来の信仰や文化によって残されたこれらの植物は、ジオパークの貴重な素材でありながら、生物多様性を示す大切な一部でもある。
シラスタの池 (東伊豆町)	川久保川の上流に位置するシラスタの池は約 80 万～20 万年前の噴火でつくられた天城火山の浸食による地すべりでできた窪地に水がたまった湖で、原生林に囲まれたモリアオガエルの生息地である。アクセスは安易ではないため、周辺環境へ人為的影響が少なく、結果的に自然景観の保全の好例となっている。

C-3-iii ジオパーク活動による保全（ジオダイバーシティの維持管理）

当地域にジオパークが創立されたことがきっかけとなり、住民は慣れ親しんだ景色に新たな価値を見出し、一部の保全活動に取り掛かった。代表的な例として露頭の保全や、地層の剥ぎ取り標本作成などが挙げられる。

また、協議会主導で静岡県土木や農林技術職員を対象とするジオダイバーシティに関する研修も行ってきた。

表 8 ジオパークがきっかけとなって始まった保全の事例

ジオサイト名	内容
一色の枕状溶岩 保全活動 (西伊豆町)	伊豆半島最古の地層（仁科層群）の枕状溶岩が見られる。 ジオパーク活動が広まると、西伊豆町の町内会が主体となって「一色の宝」と意識し、保全活動が始まった。2012 年に一色枕状溶岩ジオサイト保全協議会が設立され、景観の保全とともに、当ジオサイトの解説看板などを利用し、露頭の特徴を次世代に伝える教育活動も行っている。
小室山の地層 剥ぎ取り標本 (伊東市)	貴重な地層を 2012 年 3 月に推進協議会、NPO 法人まちこん伊東、伊東自然歴史案内人会が協力をし、道路工事で発見された小室山の火山灰地層を剥ぎ取り、標本を制作。同標本は、協議会会員である東海自動車(株)の協力をうけ、小室山山頂に展示されている。伊豆東部火山群の約 4 万年にわたる活動の歴史が読み解ける貴重な地質遺産である。
県土木・農林 技術職員研修	ジオサイトをはじめとする地質遺産は、急傾斜地や溪流沿いに分布することも多く、道路工事や治山・砂防工事により失われるケースもある。協議会では、無知や無理解による地形・地質遺産等の喪失を防ぐため、工事を所管する静岡県の土木・農林職員を対象として、ジオパークに関する研修（座学と現地見学会）を行い、地質遺産の保全や新規開発に対する理解を求めた。既に 3 年間行っているこのプログラムの目標は、地質の遺産に対する職員の意識の向上及びジオリテラシーの普及である。

その他

上記以外にも、ジオパークエリア内で行われている景観の保護・保全、整備や清掃活動があり、ジオパークの自然文化遺産の保護に直接関連する。

表 9 その他の保全にかかわる活動事例

活動種別	内容
海底清掃 (南伊豆町)	NPO 法人伊豆未来塾は、海底の清掃をしながら、ダイバーや海人を中心に、海の景観の評価に取り組んでいる。
市民団体による 自然の研究など	熱海市にある NPO 法人熱海自然の学校は、「日本で最も自然と人が共存共栄する街“熱海”を創る」と言うキャッチフレーズのもと、自然環境の調査・研究や体験活動に取り組んでいる。主な活動として、スノーケリング海洋教室や海の観察クルーズがある。
社会・文化的景観	伊豆半島では昔ながらの文化的景観が保護されている事例も多く、一部は文化財に指定されている。また、信仰・伝説の中で大地の動きと関連するものも多数ある。その主な例として、三嶋大社の三嶋大明神や柿崎弁天島の龍神が挙げられる。また、伊豆は日本近代文学史の文学者の活躍の舞台だったため、ジオサイトやその周辺で多くの歌碑や文学碑が見られる。伝統文化や歴史上大切な建築物、街などが保護されていることも多い。

C-4 ジオサイト以外の一覧と説明

当ジオパークには、地質学的なサイト以外にも自然景観や歴史・文化などに関する多くの見どころがある。それらのうち、地域のジオダイバーシティ等と密接な関係を持つ代表的なスポットについては、ジオパークと関連づけをしながら、ジオツアー等に活用している事例も多い。ジオサイト以外で、ジオツアー等に活用されているスポットを以下に紹介する。

表 10 ジオツーリズムに関連する活動で利用しているジオサイト以外のサイトの例

カテゴリ	サイト名	内容
自然景観	函南の原生林	江戸時代から守られてきた、第四紀火山の山腹に広がる水源涵養林。樹齢 500 年のアカガシの巨木などが残っている。丹那盆地や十国峠などのジオポイントから近く、また火山のなだらかな地形や特徴的な植生などの観察の場として用いられている。
歴史伝統文化	韮山反射炉	江戸末期に江川担庵により大砲製造を目的とした製鉄炉。炉体の一部には「伊豆石」が用いられている。反射炉の建築や運営には、伊豆で活躍していた土木・鉱山技師などの技術も用いられている。近代産業遺産群として世界文化遺産の構成資産候補にもなっている。
	蛭ヶ小島 願成就院 狩野川など	「遠流の地」でもあった伊豆には、各時代に重要な役割を果たした人物が流されてきた。源頼朝もそのひとり。頼朝が流れていたとされる「蛭ヶ小島」は現在は水田に囲まれているが、狩野川の流路変遷前には、付近を狩野川が流れていた場所でもある。頼朝や北条氏の物語と大地のかかわりをたどるツアーなどが企画・実施されている。
	塩かつお工場	西伊豆町田子地区の伝統的保存食。良質なカツオが水揚げされ、鰹漁で栄えた田子では、航海安全と豊漁豊作・子孫繁栄を祈願して「塩かつお」を飾った。縁起の良い食べ物として「正月魚（しょうがつう）」として供えられたりもした。工場見学をすることもでき、ツアーなどに組み込んでいる。
町並み	各地の古い町並み	伊豆の各地に残る「伊豆石」や「なまこ壁」の建築物も、地質資源の活用事例として貴重である。
美術	ならんだの里（南禅寺） 仏の里美術館 その他、郷土資料館・宝物館など	伊豆半島は日本の地方のひとつではあるが、国宝・重要文化財級の仏像が多く所蔵されている。これは、半島が東西海上交通の要衝であり、京都・奈良などの仏像が輸送されてきていたためと考えられている。また、「遠流の地」でもあり、都の文化が輸入されやすい場所でもあった。こうした海上交通などの人と海とのかかわりや、外部からの文化の流入はジオツアーでも取り上げることが多く、その延長としてこれらの施設をツアーに組み込むことがある。
温泉	各地	温泉はまさに大地の恵みではあるが、ジオポイントとしては、源泉が観察できる場所や温泉地の風情が特別色濃く残っている場所など、一部を登録しているのみである。ジオポイントとして登録していない温泉であっても、ウォーキングツアー後の休息や癒しを求めて伊豆各地の温泉を活用している。
文学作品・文人に関連した文学碑・施設等	各地	伊豆の景観や温泉は多くの文学者に愛されたポイントサイトは、その特徴的な景色が作品中に直接描画され、あるいは登場人物の心理描写の比喩として登場している。ジオツアーでも文学者の足跡や作品の場面をたどることは多く、文学碑や文人にゆかりのある施設も訪れる。

D. 経済活動とビジネスプラン

D-1 申請地域の経済活動

D-1-i 産業の特徴

伊豆半島の産業は、交通利便性に恵まれた北部地域と多様な自然景観に富む中南部地域に大別される。伊豆北部地域は東名・新東名高速道路、東海道新幹線などの交通インフラが発達しており、東京まで1時間という立地と豊富な水資源から、商工業が盛んであるとともに、首都圏のベッドタウンにもなっている。一方、中南部は風光明媚な景色、温泉、海、食などを求めて主に首都圏から観光客が訪れ、観光業が主な産業である。

表 11 就業者数と内訳（2010 年国勢調査）

地域	就業者	第一次産業	第二次産業	第三次産業	第三次産業
	総人口	就業者	就業者	就業者	比率
市区町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)
沼津市	100,487	2,818	30,943	64,589	64.3
熱海市	18,047	286	2,159	15,102	83.7
三島市	54,802	1,230	15,173	37,181	67.8
伊東市	32,277	810	4,312	26,207	81.2
下田市	11,863	566	1,519	9,630	81.2
伊豆市	17,079	1,129	3,928	11,848	69.4
伊豆の国市	24,569	1,361	6,347	16,562	67.4
東伊豆町	6,961	595	849	5,503	79.1
河津町	3,927	517	535	2,862	72.9
南伊豆町	4,330	499	560	3,204	74.0
松崎町	3,578	256	626	2,691	75.2
西伊豆町	4,280	249	919	3,102	72.5
函南町	18,554	705	5,294	12,404	66.9
清水町	16,072	191	5,084	10,536	65.6
長泉町	20,323	455	7,261	12,495	61.5
伊豆15市町合計	337,149	11,667	85,509	233,916	69.4

産業の状況は表 11 からわかるように、エリア全体の第三次産業比率は、69.4%で全国平均 66.5%より高い。愛鷹山麓から田方平野に位置する地域を除くと第三次産業の比率が 70%を超えて観光関係での就業が多いことがうかがえる。

D-1-ii 観光産業

伊豆半島の観光交流客数は、全国の他の温泉観光地同様、長期の減少傾向にあるが、それでも年間 3,700 万人を超える観光客が訪れている。そのうち約 8 割が宿泊客で、宿泊客の 7 割が関東からの来訪者である（2012 年度「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」）。



図 20 申請地域の観光交流客数

静岡県は、多様化する観光客のニーズの変化を踏まえ「地域の本当にいいものを地域の人が誇りに思い、それを来訪者と分かち合う観光」をスローガンに掲げている。2014 年度策定の静岡県観光基本計画では、地域価値の再発掘や共有のための方法として、「伊豆半島ジオパークの推進」を重点施策の一つに掲げている。

D-1-iii 農林畜産業

伊豆半島は山間部が多く、山間地の狭い平野部と北部の田方平野を除くと、稲作に適した地域が少ない。

地域の特徴的な農産品として、第四紀火山のなどらかな斜面を利用した産品があげられる。田方平野の東部、箱根南西麓から南に続く斜面では、火山灰土の上でダイコンやバレイショ、スイカ、シイタケなどが生産されており、箱根西麓三島野菜や函南スイカなどのブランド野菜となっている。海に面した側の斜面では、柑橘類を中心とした果樹栽培が盛んである。また、丹那盆地や西天城高原では地形を生かした酪農がおこなわれている。

開析された第四紀火山の周囲では、豊富な湧水を利用したワサビ栽培が行われる。谷間を一面に覆うワサビ田は「ワサビ沢」とも呼ばれるとおり、湧水を余すことなく利用する農業である。

その他、温暖な気候を利用したカーネーション、
マーガレットなどの花卉や温泉の熱を利用した温泉メロンなどの栽培もある。近年では、静岡県伊豆農業研究センターの支援のもと、ノビルやツワブキなど半島に自生する食用可能な植物 11 種類を「賀茂十一野菜（かもじゅういちやさい）」として、産直市などで販売する試みも始まっている。



図 21 伊豆半島の土地利用図と農業



箱根西麓野菜の天日干し
(三島市)



筏場新田のワサビ沢
(伊豆市)



西天城高原



賀茂十一野菜

D-1-iv 水産業

プレートの沈み込み帯にあり、駿河湾と相模灘という深い海に挟まれた伊豆半島は、浅い海から深い海に住む魚まで多様な魚種に恵まれている。例えば、沼津市戸田では駿河湾の深海にすむタカアシガニ漁が行われているほか、メギスなどの深海魚のすり身を利用したトロはんぺんが考案されている。東海岸では水深 200m 以上に生息するキンメダイ漁が行われ、缶詰「きんめ缶」などの商品も開発されている。また、太平洋に突き出た半島に発生する海流や深海からの湧き上がる潮の流れを読んで定置網が仕掛けられ、その日の朝に獲れた魚が漁協直営の食堂でジオ（地魚）丼として提供されている。

狩野川、河津川などでは鮎釣りが盛んであるが、漁業協同組合の遊漁規則で遊魚期間、場所、方法等が定められている。釣りが解禁となる時期(概ね6月～12月)には、川の中に入って友釣りをする姿が風物詩となっている。

D-2 申請地域の現存施設と計画中の施設

D-2-i 申請地域の現存施設

地域内の主要施設を表 12 に示す。登録博物館・博物館相当施設として総合的な自然史博物館は存在しないが、半島内の各地には民俗資料館や水族館、植物園、道の駅などジオパーク活動の拠点となりうる施設が整備されている。2013 年には、協議会と伊豆市、関係機関の協議の結果、道の駅「天城越え」敷地内に天城ビジターセンターが整備された。

表 12 主要施設一覧

種別	名称	種別	名称
登録博物館	MOA美術館(熱海市)	ホール	沼津市民文化センター
	佐野美術館(三島市)		サンウェルぬまづ(ぬまづ健康福祉プラザ)
	池田二十世紀美術館(伊東市)		千本プラザ(沼津市)
	上原仏教美術館(下田市)		三島市民文化会館(ゆうゆうホール)
	上原近代美術館(下田市)		三島市民生涯学習センター(いきいきホール)
	沼津市歴史民俗資料館		伊東市観光会館
	沼津市明治史料館		伊東市生涯学習センターひぐらし会館
	沼津市戸田造船郷土資料博物館		下田市民文化会館
	三島市郷土資料館		伊豆市民文化ホール(修善寺生きいきプラザ)
	伊豆・三津シーパラダイス(沼津市)		修善寺総合会館(伊豆市)
	ベルナールビュッフェ美術館(長泉町)		天城劇場ホール(天城会館内)(伊豆市)
			土肥総合会館(伊豆市)
博物館相当	伊豆ガラスと工芸美術館(伊東市)	道の駅	長岡総合会館(アクスィスかつらぎ)(伊豆の国市)
	伊豆シャボテン公園(伊東市)		韮山文化センター(韮山時代劇場)(伊豆の国市)
	下田海中水族館		長泉町文化センター(ベルフォーレ)(長泉町)
	熱川バナナワニ園(東伊豆町)		伊東マリンタウン
	三嶋大社宝物館(三島市)		開国下田みなと
			天城越え(伊豆市)
			伊豆のへそ(伊豆の国市)
			下賀茂温泉 湯の花(南伊豆町)
			花の三聖苑伊豆松崎(松崎町)

D-2-ii 拠点施設とビジターセンターの整備

当ジオパークは面積が広く、訪問者の流入口も複数ある。また、ジオサイトや宿泊施設もエリア内の広い範囲に分布している。こうした地域において、訪問者に対して効果的に情報伝達するために、原則として各市町(計 15 市町)に 1 か所ずつ、周辺エリアの情報提供を目的とするビジターセンターを設置することとしている。ビジターセンターは現在までに 5 か所が設置された(表 13)。

一方、このような小規模な施設だけでは、ジオパークの背景である学術的な情報の更新や、情報発信を維持することが困難である。そこで、ジオガイドや専任研究員が常駐し、ビジターセンター群の中心的な機能を有する中央拠点施設を設置し、訪問者に対する詳しい情報提供や、各ビジターセンターに対するコンテンツ提供を行うことを計画している。中央拠点施設は、半島中央部に近い伊豆市を予定しており、推進協議会の事務局機能と併設する予定である(表 14)。中央拠点施設とビジターセンター群は、互いに機能を分担しつつ、情報交換を行えるようネットワーク化し、どのエリアを訪れた訪問者に対しても、楽しみながら伊豆を学べる場を提供するとともに、訪問者からのフィードバックを各ビジターセンターで共有できるような仕組みを目指す。

表 13 ビジターセンターの設置状況および計画

	市町名	名称	場所	設置年度
整備済	南伊豆町	南伊豆町ビジターセンター	あいあい岬	2012
	三島市	三島ビジターセンター	三島駅前観光案内所内	2013
	伊豆市	天城ビジターセンター	昭和の森会館内（道の駅天城越え）	2013
	東伊豆町	東伊豆ビジターセンター	熱川温泉観光協会内	2013
	松崎町	松崎ビジターセンター	明治商家 中瀬邸	2013
整備予定	下田市	道の駅「開国下田みなと」の一角に設置		2014
	河津町	七滝観光センターに整備		2014
	伊豆の国市	道の駅「伊豆のへそ」または「伊豆中央道観光案内センター」の一角に整備		2014
	沼津市	戸田地域活性化センター「くるら戸田」の一角に設置		2015
	熱海市	改築中の熱海駅ビル内観光案内所に併設		2015
	長泉町	町有施設「コミュニティながいずみ」の一角に整備		2015
	函南町	函南塚本 IC 付近に整備中の道の駅に整備		2016

表 14 中央拠点施設の予定

施設名称	備 考	予定年度
中央拠点施設（名称未定）	伊豆市修善寺総合会館 1 階に設置	2016



図 22 伊豆半島モデルの施設整備イメージ

D-3 ジオツーリズムの将来性分析

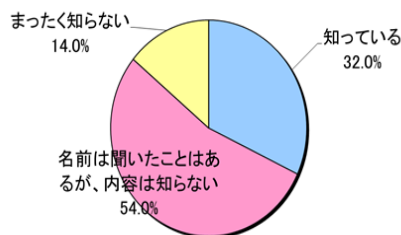
当ジオパークは協議会設立に先立つ 2011 年 1 月、静岡県が静岡大学総合防災センターの小山真人教授に執筆・監修を依頼した「伊豆半島ジオパーク構想指針書」に基づき活動を進めてきた。今後もこの活動を継続して推進するために、2014 年上半期中の基本計画の策定を予定している。策定にあたり 2013 年 12 月に住民 350 人を対象に web アンケートを実施し、伊豆半島ジオパークの現在の認知度について調査するとともに、2014 年 1 月には住民ワークショップを行い、目指す伊豆半島ジオパークの姿について意見交換を行った。ワークショップには、地域住民、ガイド、行政職員、交通事業者、高校生など約 100 名が参加した。

web アンケートとワークショップによって得られた伊豆半島ジオパークにおけるジオツーリズムの強みと弱みを以下に述べる。

D-3-i ジオツーリズムの強み

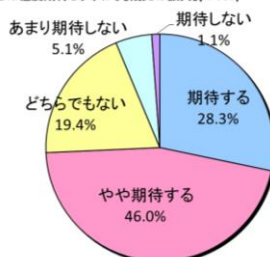
- 3 つのプレートが重なる境界に位置する世界的にも珍しい場所であり、現在も続くプレート活動が引き起こすダイナミックな火山活動を、海底火山、陸上大型火山、伊豆東部火山群の時代ごとに見ることができる。
- 伊豆半島は一年中温暖な気候であり、年間を通じ、東西南北、四季折々のガイドツアーの開催やジオサイト訪問が可能である。
- 古くからの湯治場として文人墨客にも愛された歴史があり、現在も年間 3,700 万人以上の観光客が訪れる観光地である。
- グリーンツーリズム、エコツーリズム等との融合はもちろん、温泉入浴とジオウォーク、文学散歩とジオ、独特の食材や食文化とジオ、マリンスポーツとジオなどのコラボレーションが既に行われている。
- 伊豆半島ジオパークの活動が進むことによる効果として「観光の振興」に 7 割以上、「自然・環境の保全」に 8 割以上が期待している。

Q1.あなたは、「伊豆半島ジオパーク」を知っていますか。(お答えは1つ)(N=350)



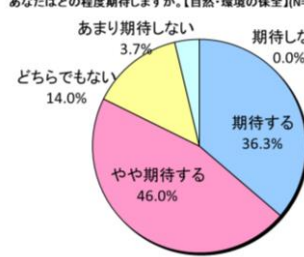
伊豆半島ジオパークに関する認知度

Q4-1.「伊豆半島ジオパーク」の活動が進むことによる、以下のような効果にあなたはどの程度期待しますか。【観光の振興】(N=350)



ジオパークの観光面への期待度

Q4-2.「伊豆半島ジオパーク」の活動が進むことによる、以下のような効果にあなたはどの程度期待しますか。【自然・環境の保全】(N=350)



ジオパークの環境保全への期待度

図 23 web アンケート結果の一部

D-3-ii ジオツーリズムの弱み

- 総合的な自然史博物館が存在しない。
- 伊豆半島ジオパークの認知度について「知っている」と答えた者が 3 割、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」と答えた者が 5 割であり、内容についての住民への浸透が必要。
- 外国語が話せるガイドが少ない。

D-3-iii 将来ビジョンと取組事例

web アンケートやワークショップによるジオツーリズムの将来分析によると、前述のビジターセンター等の施設整備に加え、a) 伊豆に訪れる多くの観光客のジオツアーへの取り込み、b) 観光客を迎える住民への理解の促進、c) 多言語への対応、が必要になる。

a) 観光客のジオツアーへの取り込み

多数の観光客が訪れる伊豆半島では、ジオツアーを主目的に訪れる「ジオパークファン」を獲得することと、別の目的で訪れる観光客に対し様々な方法で伊豆半島ジオパークの楽しみ方を提供することが求められる。

ジオパークファンの獲得例として参考になるのは、「NPO 法人まちこん伊東」の「伊豆を学ぶ」や温泉を健康づくりに活用する旅館が組織する「かかりつけ湯協議会」の「認定ジオガイドと行く湯めぐりジオツアー」等の年間シリーズツアー企画である。これらのツアーは、客層こそ異なる部分はあるものの、確実にジオパークファンの獲得に向かっている。特に「伊豆を学ぶ」では、会員制で年間10回程度のツアーを伊豆半島各地で行うのみならず、年に1回、国内のジオパークへのバスツアーも行い、他地域を学ぶことにより、ふるさとの魅力について改めて知り、新たなファンの受け入れの下地となっている。

別の目的で訪れる観光客へのアプローチとしては「るるぶ」、「まっぷる」等の旅行雑誌への露出やジオポイントでもある観光スポットへの案内解説版の設置がある。

当協議会では、ジオガイド、県や地元の観光協会等と協力して、マスメディアへの積極的な取材対応及び広告掲載を行ってきた。（表 15）。



伊豆半島ジオパークのめざす未来を考えるワークショップの様子

表 15 2013 年・14 年に伊豆半島ジオパークについて掲載された雑誌・広告物等（一部）

雑誌名	No.	記事名
日経おとなのOFF	141 (3月号)	西伊豆・中伊豆 太古からの自然現象が美しい景観を醸成
るるぶFREE	12 (13春・夏)	伊豆半島ジオパークへようこそ！
地理	696 (2013年7月号)	伊豆半島ジオパーク-南から来た火山の贈りもの-
N Drive	ていねいを探す旅4	伊豆スカイラインから「伊豆半島ジオパーク」を楽しむ
るるぶFREE	13 (13・14秋・冬)	ダイナミックな大地を感じる伊豆半島の旅 伊豆ジオツアーの見どころ5選！
さんしんニュース	247 (2013 8・9月号)	第3回夢起業大賞最優秀受賞企業「ジオガシ旅行団」
するーかる	68 (9月号)	伊豆半島ジオパーク！！『するーかるツアー』のモデルコースをご紹介します
別冊Discover Japan 地域ブランドのつくりかた	エイムック2709	伊豆は火山が生んだ自然のミュージアムです。
まっぷる おとなの旅と宿	伊豆・箱根・富士山	自然の神秘に触れる
is Beautiful 伊豆 伊豆・湯河原へ	2013年1月1日～3月31日	ジオ菓子
市政	63 (January 2014)	市長座談会 ジオパークを核に地域活性化
Gabin(ギャビン) 百歳万歳	2 (January 2014)	大地の息吹を体感する 伊豆半島ジオパーク
ECOツーリズム	62 (2014 Spring)	“伊豆半島ジオパーク”足元の大地(ジオ)の魅力を全国に
るるぶ伊豆	14～15	城ヶ崎海岸“ジオ”ウォーキングほか3件
サンケイスポーツ	2014年3月13日	春伊豆で感激体験
毎日新聞夕刊(首都圏版広告掲載)	2013年4月26日	ようこそ！楽しさいっぱい“伊豆の春”へ
毎日新聞夕刊(首都圏版広告掲載)	2013年4月27日	南から来た火山の贈りもの 伊豆半島ジオパーク
毎日新聞(県内版広告掲載)	2013年6月2日	南から来た火山の贈りもの 伊豆半島ジオパーク
毎日新聞夕刊(首都圏版広告掲載)	2013年7月18日	この夏、伊豆半島ジオパークを楽しむ

ジオパークを訪れる訪問者のために、あるいはガイドツアーの際の補助として、ジオサイトの成り立ちを簡潔に記述した日英併記のジオ解説版が整備されている。市町や地元企業、NPO が既存の観光案内板等と調整を図りながら設置しており、2014 年 3 月末までに 85 か所 100 基が完成した。板面の内容とデザインについては、当協議会専任研究員の監修のもと市史町史等の資料やガイドの意見をふまえて作成されている。解説版は、エリア内で共通のデザインとして利用者に

わかりやすくなるよう工夫するとともに、当協議会の web サイトへのリンクを記した QR コードが付され、関連情報への誘導が図られている。



ジオポイントに設置された案内看板の事例(修善寺ジオサイト・旭滝) 解説板には学術的な内容だけでなく、関連した地域の伝承や文化などについても記述される。

b) 観光客を迎える住民の理解の促進

ジオツーリズムがその地域で成功するには、観光客を迎える住民の理解も欠かせない。

協議会や自治体、ジオガイドたちは、住民のジオパークへの理解を高めるために、様々な場所で講演会等を積極的に催している。推進協議会設立以降、2014 年 2 月末までに協議会、ガイド及び各団体が開催・講演した研修会・講演会・勉強会等は 272 回に及び、約 11,000 人の参加を得ている。



ジオパークに関連した出版物



英語表記にも対応したガイドアプリ「GeoIZU」

さらに、普及の大きな力になっているのが、地元の新聞社などのマスメディアである。静岡新聞と伊豆新聞の協力は特筆に値する。静岡新聞は当協議会と協力し、2013 年 7 月に公式ガイドブック「冒険半島伊豆へようこそ!」を発売した。新聞の連載企画では、「大地と生きる」として、大地と関わる生活や仕事をしている「人」にクローズアップしながら、大地と人の生活とのかかわり事例を紹介しているまた、伊豆新聞は過去数年間にわたってジオパークの連載を行って、ジオパークとしての伊豆半島の魅力を様々な角度から紹介した。

c) 多言語化への対応

多言語化への対応として、当ジオパークでは設立当初から HP に日本語のほか英語・中国語・韓国語のサイトを設けている。これに加え 2013 年度は、英語、中国語（繁体・簡体）、韓国語のマップと DVD も作成した。

また、個人旅行者向けの強力なジオパーク案内策として、平成 26 年 3 月に、iPhone 向けアプリ「GeoIZU」をリリースした。このアプリは、1 つの画面に 12 枚の動画が流れ、動画をタッチするとジオサイトの解説を見られるとともに、現在地から目的とするジオサイトへの経路検索機能が付いている。日本語版だけでなく英語版も用意されており、外国語での案内機能を補完する。

今後は海外からの観光客を対象に、日本文化に触れながら伊豆半島の大地の魅力を感じることができ、高付加価値のウォーキングツアーの造成をめざして、外国人専門の旅行代理店と連携して取り組む。

D-4 持続的開発についての概要と方針

D-4-i ジオツーリズムと経済

a) ジオツアー

ジオツアーは半島全域で様々な主体、趣向で実施されている。推進協議会設立以降、2014年2月末までに協議会、ガイド及び各団体が主催したジオツアーは357回に及び、15,000名以上の参加を得ている。ジオガイドは単独で、あるいは各種団体と協力し、様々なガイドツアーを実施している。堂ヶ島マリン(株)の遊覧船とジオガイドが連携したジオサイトクルーズ（毎週土曜、50分間）をはじめ、フォトツアー、ビジターセンターを起点としたハイキング、シーカヤックや自転車を活用したツアー、ウォーキングなど様々である。今後は、ジオガイドが実施するツアーのシリーズ化、旅行商品としての販路の確保・拡大などを支援していく。

b) 関連商品

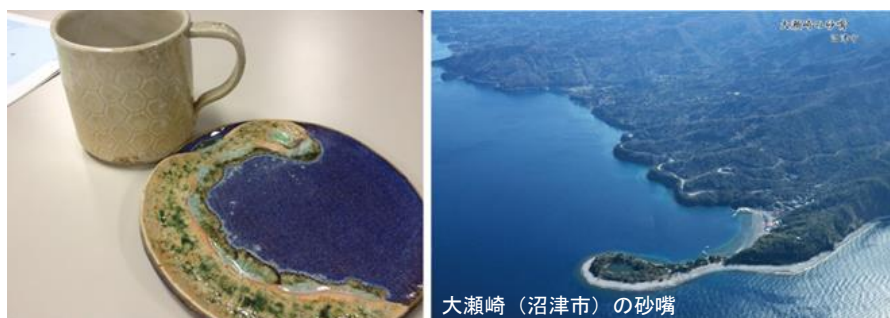
ツアーそのものだけではなく、関連商品のアイデアが数多く出され、販売されているのも、個性あふれる住民が揃う伊豆の魅力である。「ジオガシ（43 ページで詳述）」を筆頭に、いとう漁協の「ジオ丼」、ベケライダンケ（伊豆の国市）のジオパークブレッド、東海自動車の「溶岩糖」などの食品・メニューのほか、ジオサイトをイメージした陶器なども販売されている。



地元企業やガイドが次々と生み出すジオツアーのチラシ（左）とジオ商品の一例（伊豆ジオパン）（右）

ビジターセンターの中には、ジオガシなどのほか、地場製品の販売等を推進しているところもある。こうした魅力あるツアーやジオサイト、ジオフード等のご当地紹介の地上波テレビ番組など各種メディアにもたびたび取り上げられるようになってきている。

さらには、湧水と関連の深いワサビやうなぎ、深海の水産物、火山灰土によって作られる野菜などジオパークのストーリーに直接的に関与する食材はもちろん、地域の風土や風習が育んだ食べもの（松崎の岩のり、西伊豆の潮かつおなど）も当ジオパークの魅力であり、積極的に活用する。



砂嘴をイメージした皿と
柱状節理を模したカップ

大瀬崎（沼津市）の砂嘴

c) ジオガイド

ジオの魅力を語るガイドの育成は、ツーリズムや地学教育を進めてくために最も重要なことである。2011 年度に開始し、2013 年度より有料で行っている「ジオガイド養成講座」は毎年約 50 名が受講している。約 2 か月の講座終了後には実地試験を経て協議会がジオガイドを認定する仕組みができています。2012 年度までの 3 年間で 76 名のジオガイドが誕生した。

ジオガイドの自発的な活動として、認定ジオガイドは、広大な半島全体を活動領域とする「伊豆半島ジオガイド協会」を 2012 年に設立した。この協会では、ガイド同士で半島各地の得意とするエリアを教えあって研鑽をつんだり、救急救命法を学んだりするスキルアップ講座や他地域のジオパークの視察・交流などを積極的に実施している。ジオガイドが考案した人々の関心を高める独創的な取組については、D-6 で後述する。

2013 年度には、活動エリアが限定的で長期の養成講座を受講することは困難だが、ジオパークに興味を持つ自然ガイドの存在を念頭においた「準ジオガイド」制度を創設した。この制度のもとで伊東地域を活動拠点とするダイバー有志が「伊東ジオマリンクラブ」を立ち上げ、ジオスノーケリングやジオダイビングなどの試みが始まっている。

D-4-ii 地学教育・防災への取組み

地域が持続可能な経済発展を目指すためには、次世代を担う地域の子供たちにジオパークの魅力を伝える教育活動が重要である。また、伊豆半島地域に繰り返し訪れた地震火山、風水害などの事実を住民が学び、その教訓を継承して対策を検討する取組が必要である。以下では、教育と防災の取組と成果について述べる。

a) 地学教育

JGN 加盟以前よりジオパークを積極的に教育に取り入れていた伊豆総合高校がその活動を認められ、県内県立高校初の「ユネスコスクール」登録校となった。伊豆総合高校では、自然科学部が中心となり、ジオサイトのリーフレットやジオカルタなどを製作し、それらを用いて地域の小学校への出前授業や、地域住民を対象としたジオツアーを実施している。さらに、総合学科 2 年生を対象とした必修カリキュラムの中にジオパーク教育を取り入れている。

松崎高校は、伊豆総合高校との SPP 等で高校間連携学習を行い、現在では授業やジオポイントの現地学習のほか、ジオサイトの保全活動を地元住民やガイドとともに実施している。

伊東高校美術部では、地域のロータリークラブからの依頼をうけ、伊豆東部火山群により作られた伊東の大地の鳥瞰図を描き、パネルにして市内の小中高校に配布するなど、高校生と地域社会との連携、それによる普及拡大がみられる。

学校教育への導入については、現場の教員に理解してもらうことが重要である。そこで、理科又は防災教育を目的とした教員研修に協議会から専任研究員を派遣し、キッチン火山実験の活用解説や過去の自然災害の記録などを通し、教育へのジオパーク活用を促している。

さらに、地学教育への導入として、協議会ではガイドとともに、半島各地のイベントなどでブース出展を行い、訪れる子どもやその親を対象に、手軽な実験やクイズなどを通じて地学への興味を誘う活動を展開している。2013年8月には、下田市・南伊豆町を舞台に、全国から33名の子ども達の参加を募って地震火山子どもサマースクール「南から来た大地のものがたり」を開催した。



伊豆総合高校主催のジオツアー



伊東高校美術部による鳥瞰図



地震火山子どもサマースクール

b) 防災への取組

ジオパークの活動を通じて、人々は大地の成り立ちを楽しみながら学ぶことができるが、その過程で過去の災害に関する知識や、今後起こり得る災害を想像する能力も養われる。この能力は、人々の防災に関する知識と対応力を高める基礎となる。

伊豆東部火山群や、急峻な山地と多雨による水害や土砂災害など、様々な災害の危険性を有する伊豆半島は、ジオパーク活動の一環として防災に関する取組も行っている。ジオサイトの学習を通じ、地域の魅力とともに、自然の中から災害の痕跡を読み取りイメージする力を養うことができるよう、解説看板やガイドツアーを工夫している。また、ジオサイトの中には、災害遺構や防災施設も組み込み、より直接的な防災教育に活用できるようになっている。

2013年10月の伊豆大島の台風26号土砂被害発生時には、近隣ジオパークとして当ジオパークの専任研究員が被災後速やかに現地を訪れて「ジオパークネットワークとしての支援を行うための事前調査」を行うとともに、当ジオパーク会長が大島市長に日本ジオパーク全国大会で募った義援金を届けた。

伊豆東部火山群については、2012年に火山防災協議会が設立され、避難計画等の火山防災対策を検討している。静岡県、伊東市、伊豆市の地域防災計画には「伊豆半島ジオパーク推進協議会と連携し、観光客等に対して火山に関する防災思想と防災対応を広く普及・啓発する」と記載されており、火山防災協議会のメンバーとして加わり、ジオパークを用いた防災啓発等を実施している。

D-4-iii 地形・地質遺産

ジオパークでは、地形・地質遺産の保護と保全はもちろん、地元社会においてその遺産の一部の持続可能な活用も可能とされる。当ジオパークでの地形地質の保全については「C 地質の保全」で述べてきた。ここでは、これらの遺産の活用について触れる。

地域の地質遺産は地元社会の誇りにもつながり、ジオツーリズムや研修のため使われる事例も多い。海岸地域では、その景観や生態系に頼って生活している人々もいる。

伊豆半島ジオパークでは、一般人に向けた知識普及活動、人材育成（ジオガイド養成や地域の学校との連携）、調査・研究などを積極的に促進し、次世代のため地域の遺産を守りながら持続可能な活用を進めている。2012年に静岡大学防災総合センター等と連携して伊東港沖の手石海丘における火山ガス調査を行ったほか、2013年にはスペインカナリー諸島観測測候所の PEREZ Nemesio 博士と日本大学鶴川元雄博士を招いて講演会「海底火山を語り継ぐ」を実施した。またその際、Nemesio 博士の現地調査を支援した。今後は学術部会などを通じて研究成果を住民やジオガイドが活用できる仕組みを作っていく。

D-5 申請地域の地域社会の発展の取組と事例

伊豆半島は各市町の首長が広域的な立場で地域社会の課題やまちづくり、防災等について協議する伊豆半島7市6町首長会議を有している。同会議が平成25年4月にまとめた「伊豆半島グランドデザイン」では、観光が主産業である伊豆半島のSWOT分析を行い、その上で美しくも時おり脅威を見せつける自然と向き合い、域内の連携を促進することを可能にする伊豆半島ジオパークをリーディングプロジェクトとして位置づけている。県や各市町の様々な計画にも、ジオパーク的な発想やジオパークの存在が明記されるようになってきており、今後の地域社会の発展に向けた広がりが期待できる。

地元企業との連携による取組も進んでいる。ジオガイド養成講座やジオツアーを実施する際は、地元のバス事業者や遊覧船などの協力を得て事業が行われ、バスの運転手の中にジオガイドの資格を持つ者もいる。

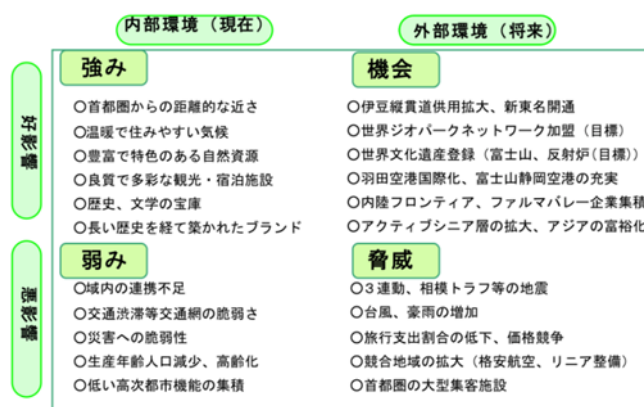


図 24 伊豆半島のSWOT分析
（「伊豆半島グランドデザイン」より）

表 16 地元企業との定期的な連携の一例

概要(主体)	2011	2012	2013	2014
ジオツアーのバス配車 (東海自動車株) (株)伊豆バス	8月			
ジオフォトトレイン (伊豆急行株)	3月			
ジオツアーの造成 (かかりつけ湯協議会)		8月		

地域住民が主体となるジオパークにとって、ジオパークの理念と伊豆半島の地質遺産等の価値を学んだジオガイドの存在は、半島内外の住民の関心を高めるために極めて重要である。伊豆半島ジオパークでは、ジオガイドが率先して行う独創的で先駆的な活動に関心が集まっている。

三島市のジオガイドはジオサイトを日本の伝統文化である「生け花」で表現した。無形文化である生け花に関心を寄せる層は多く、1日で347名が参加しジオとの融合に高い関心が集まった。ジオガイド9名が協力し、表現されたジオサイトの解説も行った。

いとう漁協は、伊東沖の定置網でその朝獲れた魚を使ったジオ井を直営店で販売するとともに、「海の中もジオ」を合言葉にダイバーへの働きかけも行い、準ジオガイド団体「伊東ジオマリンクラブ」結成への動きにつなげた。



ジオトレインの車内で見どころを紹介

E. GGN加盟にかける期待と主張

今後は「ジオパーク」という世界共通の取組を実践する地域として、ジオガイドや住民の活動を世界に発信し、研究、教育、防災、地質遺産の保全などの分野で新しい挑戦を続けていきたい。

私たちは、GGNに対して、三つの価値を提供できる。

一つ目は、世界的にも特異な伊豆半島の地形・地質の価値である。

伊豆半島は、かつて南洋に位置した火山島であり、フィリピン海プレートの北進に伴い火山活動を繰り返しながら本州に衝突して誕生した。このような成り立ちとともに、現在も火山活動や地殻変動が続く伊豆半島は、ダイナミックな地球の活動を感じることもできる、世界でも同種の例を見ない地球上の特異点とも言える地域である。

伊豆半島では、その成り立ちを示す証拠を各地で目にすることができる。深い海での火山活動から浅い海での活動への遷り変わり、本州との衝突に伴う変動、陸化後の火山活動、現在も続くさまざまな変動という大地のストーリーを連続的に知ることができる。

二つ目は、変動体に生きる人々の自然観と大地の資産の活用の事例、さらには防災対策などの先進的な具体的な取組である。

伊豆で暮らす人々は、火山の恵みである温泉をはじめ、天城山の豊富な湧水を使ったワサビ栽培、地殻変動によってできた急峻な崖が作る雄大な景観など、たくさんのジオの資産を観光などの地域経済に活用してきた。

一方で活発な変動帯に位置する伊豆半島は、地震や火山噴火が起きる場所でもあり、また、地形が急峻で雨が多いことは土砂災害や洪水の原因ともなっている。ジオパークの取り組みは、伊豆の自然を深く楽しみながらも、これから起こりうる災害に関する理解を地域の共通認識として浸透させていくための有用なツールとなる。

施設面でも、氾濫を繰り返していた河川のバイパス放水路や観光展望台が敷設された大型水門、伊豆東部火山群の観測網などが整備されており、自然災害に苦しむ世界の人々に対して有益な情報を提供できる。

三つ目は、地域住民が主体となった持続可能な取り組みが始まっている点である。

見慣れた地形・風景にはすべて意味があり、その意味を読むことができれば世界は違って見える。伊豆半島に住む人々は、ジオパークの活動を通じて大地の成り立ちの物語に感動し、その土地と人々の暮らしが密接に関わっていることに気付き始めた。慣れ親しんだ土地の価値を再評価するとともに、伊豆を訪れる人や次の世代へ伝える活動が始まっている。伊豆半島ジオパークの活動は、伊豆の人々に一層の地域への愛情と誇りを醸成し、古くからの地域の伝統文化や慣習を大切にするとともに、地域の特性に十分に合致した持続可能な開発・地域づくりを進めていく共通認識を育んでいる。

ノーベル文学賞を受賞した川端康成はかつて「伊豆序説」の中で「伊豆半島全体が一つの大きい公園である」と述べた。私たちは、この「一つの大きい公園」を持続可能な形で発展させる挑戦を続けていく。

川端康成「伊豆序説」冒頭

伊豆は詩の国であると、世の人はいう。

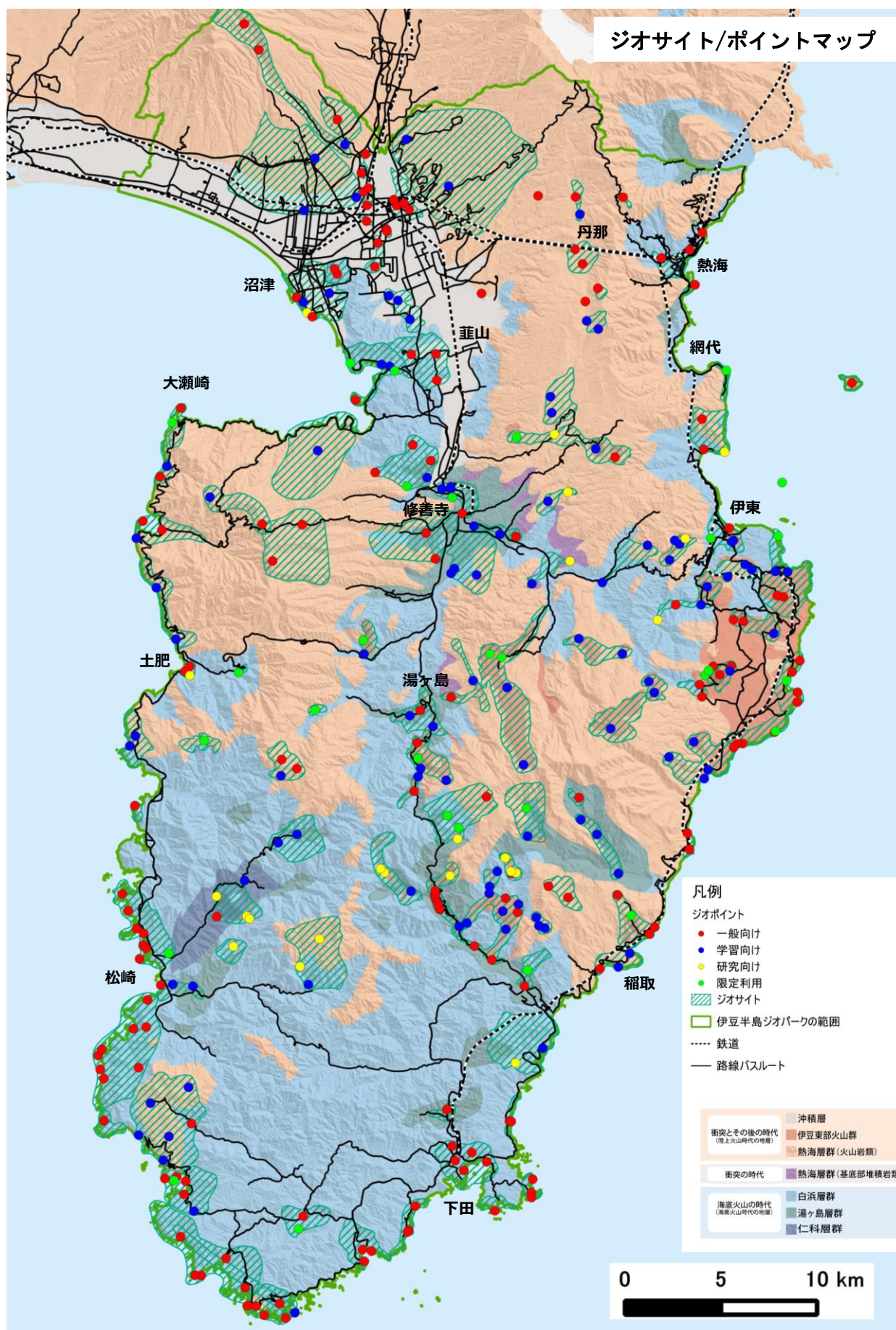
伊豆は日本歴史の縮図であると、ある歴史家はいう。

伊豆は南国の模型であると、そこで私はつけ加えていう。

伊豆は海山のあらゆる風景の画廊であるとまたいうことも出来る。

伊豆半島全体が一つの大きい公園である。一つの大きい遊歩道である。

つまり、伊豆は半島のいたるところに自然の恵みがあり、美しさの変化がある。



No	エリア名	ジオサイト	ジオポイント	種別	説明(キーワード)	解説板	文化財指定	国立公園	森林関係計画
1	宇佐美・御石ヶ沢	宇佐美・御石ヶ沢	御石ヶ沢(ナコウ山)	一般向け	石丁場跡		市指定 史跡		森林地域
2			大崎	研究向け	宇佐美火山の溶岩流				森林地域
3			行蓮寺	一般向け	津波碑・津波高標石		市指定 歴史資料		
4	手石海丘	手石海丘	手石海丘	限定利用	1989年噴火跡と現在の噴気活動				
5			物見が丘	学習向け	内野火山の地形と噴出物・温泉街の景観など				
6			佛現寺	学習向け	津波碑		市指定 歴史資料		
7	伊東温泉	伊東温泉	松川	一般向け	伊東温泉外の景観				
8			大東館の防空壕	限定利用	鉢ヶ窪・馬場平スコリア層	○			
9			伊東市民グランド	学習向け	城星火口			自然公園地域	
10	城星	城星	赤坂の道路わき	学習向け	城星火山の溶岩			自然公園地域	
11			赤坂南	学習向け	赤坂南マールの地形と噴出物				
12			汐吹崎南	限定利用	海食洞と隆起貝層・波食台と波食窪・岩脈			特別地域	
13	汐吹崎・川奈	汐吹崎・川奈	海蔵寺	学習向け	津波高標石				
14			恵鏡院	学習向け	津波碑				
15			小室山	一般向け	小室山スコリア丘・伊豆高原の景観	○		自然公園地域	森林地域
16	小室山	小室山公園	小室山公園	一般向け	小室山スコリア丘の景観・小室山溶岩台地の地形			自然公園地域	地域森林計画対象民有
17			一碧湖神社付近	一般向け	一碧湖マールの景観、大室山溶岩流先端としての十二連島	○		自然公園地域	地域森林計画対象民有
18			一碧湖・沼池間の駐車場	一般向け	一碧湖・沼池マールの景観、噴出物、沼池に流れこんだ大室山溶岩	○		自然公園地域	
19	一碧湖・梅木平	梅木平付近	梅木平付近	学習向け	梅木平・地久保火山の地形と噴出物			自然公園地域	森林地域
20			宇根	一般向け	大室山の溶岩流と柱状節理	○		自然公園地域	
21			門脇崎	一般向け	大室山溶岩流の断面、城ヶ崎海岸の景観	○		自然公園地域	
22	富戸・城ヶ崎海岸北	富戸南の網干場	富戸南の網干場	限定利用	大室山の溶岩にはさまれた古い海食崖の景観、石丁場遺跡	○		自然公園地域	
23			まえかど	一般向け	大室山の溶岩にはさまれた古い海食崖の景観、大室山溶岩流の表面構造	○	県指定 有形民俗文化財	自然公園地域	地域森林計画対象民有
24			富戸海岸北	一般向け	大室山の溶岩流と柱状節理			自然公園地域	地域森林計画対象民有
25	伊東エリア	城ヶ崎海岸南	いがい根	一般向け	大室山溶岩流の表面構造と断面、城ヶ崎海岸の景観	○		自然公園地域	
26			かんのん浜	限定利用	大室山溶岩流にできたポットホールと球形穿孔岩体		市指定 天然記念物	自然公園地域	
27			橋立	一般向け	大室山溶岩流の断面と柱状節理、城ヶ崎海岸の景観	○		自然公園地域	
28	伊雄山・赤窪	伊雄山	八幡野港北	一般向け	大室山溶岩流の地形と断面	○		自然公園地域	
29			伊雄山	学習向け	伊雄山スコリア丘の地形、山頂からの景観			自然公園地域	森林地域
30			八幡野港南	一般向け	伊雄山溶岩流の地形と断面			自然公園地域	
31	鉢ヶ窪・小川沢	鉢ヶ窪	赤沢港	学習向け	伊雄山溶岩流の地形と断面			自然公園地域	
32			中の崎	学習向け	赤窪溶岩流の地形と断面			自然公園地域	
33			恒陽台別荘地	学習向け	赤窪タフリングの地形				森林地域
34	奥野・門野	奥野・門野	鉢ヶ窪	学習向け	鉢ヶ窪火口の地形と噴出物、伊豆高原方面の景観				保安林
35			馬場平	学習向け	馬場平スコリア丘の地形と断面、伊豆高原方面の景観				森林地域
36			小川沢	学習向け	鉢ヶ窪の噴火とともに消えた化石湖と赤牛伝説				保安林
37	大室山	大室山	水道山の第一水源	研究向け	岩脈と水源の関係、鉢ヶ窪スコリア層				森林地域
38			奥野ダム	一般向け	周囲の地形、ダムと地域社会				森林地域
39			奥野ダム上流の沢	研究向け	海底火山の噴出物				森林地域
40	池	池	門野	学習向け	門野・萩火山の溶岩台地				
41			城ヶ平付近	学習向け	門野火山と大室山の溶岩流				森林地域
42			大室山	一般向け	大室山スコリア丘の地形、山頂からの景観	○	国指定 天然記念物	自然公園地域	
43	矢筈山	矢筈山	岩室山	一般向け	大室山スコリア丘の地形、岩室山溶岩ドームの地形と岩石、山頂からの景観	○		自然公園地域	
44			さくらの里	一般向け	溶岩トンネルの天窓と溶岩流の断面、スコリアラフト	○	市指定 天然記念物	自然公園地域	森林地域
45			リフト駐車場わき	学習向け	神津島838年火山灰			自然公園地域	
46	矢筈山	矢筈山	オーランド別荘地	限定利用	大室山の降下スコリア層			自然公園地域	
47			鯨人形館付近	限定利用	大室山の降下スコリア層、箱根火山と一碧湖火山列の同時噴火の証拠			自然公園地域	森林地域
48			山神社付近	一般向け	池盆地の景観と歴史、矢筈山・孔ノ山・台ノ山溶岩ドームの景観	○		自然公園地域	
49	伊豆長岡	伊豆長岡	公民館裏	一般向け	排水トンネルと池の歴史、大室山の溶岩流				
50			矢筈山	学習向け	矢筈山溶岩ドームの地形と岩石、湧水の利用			自然公園地域	保安林
51			孔ノ山	学習向け	孔ノ山溶岩ドームの地形と岩石			自然公園地域	保安林
52	城山・葛城山	城山・葛城山	南江間	一般向け	地震動の痕跡	○	国指定 天然記念物		
53			北江間	一般向け	北江間横穴群と海底火山灰層、火山の根と柱状節理	○	国指定 史跡		
54			堀之上	一般向け	狩野川放水路、狩野川資料館	○			
55	大仁・修善寺	大仁・修善寺	城山	一般向け	火山の根の地形と周囲の景観	○			地域森林計画対象民有
56			小室	学習向け	火山の根と柱状節理				地域森林計画対象民有
57			白鳥山	限定利用	火山の根と柱状節理				地域森林計画対象民有
58	葦山峠南	葦山峠南	葛城山	一般向け	火山の根の地形と周囲の景観	○			
59			雄飛滝	一般向け	柱状節理にかかる滝				
60			大仁橋	学習向け	狩野川台風と大仁橋の歴史、台風災害慰霊碑、治水施設				地域森林計画対象民有
61	浮橋	浮橋	葦山峠南	学習向け	多貫火山の溶岩流			自然公園地域	国有林
62			葦山峠西	学習向け	浮橋断崖の地形、断層池				森林地域
63			浮橋	学習向け	浮橋盆地の地形				
64	高塚山・巢雲山	高塚山・巢雲山	浮橋北	学習向け	箱根火山と九州起源の火山灰				
65			長者原	学習向け	長者原マールの地形と噴出物、巢雲山スコリア丘の景観				
66			田原野	研究向け	田原野盆地の地形、箱根火山の軽石と火山灰				森林地域
67	修善寺温泉	修善寺温泉	巢雲山	一般向け	巢雲山スコリア丘の断面、長者原火山の火山灰層			自然公園地域	森林地域
68			修善寺温泉	一般向け	海底でたまった軽石、独鈷の湯と温泉街	○			
69			旭滝	一般向け	火山の根	○			地域森林計画対象民有
70	日向	日向	ボマトランド対岸	学習向け	火山灰乱泥流	○			
71			梶山	学習向け	北伊豆地震時の崩壊跡				
72			早霧湖南	学習向け	日向タフリング、活断層群				森林地域
73	下白岩・加殿	下白岩・加殿	下白岩	一般向け	石灰質砂岩		県指定 天然記念物		
74			田代	学習向け	火山灰乱泥流、シル				
75			加殿	学習向け	火山灰乱泥流				
76	横山・梅木	横山・梅木	横山	研究向け	(伊豆の「最後の海」でたまった砂泥層と礫層				森林地域
77			梅木	学習向け	伊豆の「最後の海」でたまった砂泥層				森林地域
78			西川上流	研究向け	宇佐美火山の溶岩流				
79	冷川・柏峠	冷川・柏峠	中伊豆ウイナリー付近	学習向け	宇佐美火山の溶岩流地形				
80			向付近	学習向け	海底でたまった軽石、海底にできた溶岩ドーム				
81			柏峠	学習向け	溶岩ドームと黒曜石産地			自然公園地域	保安林
82	大仁・修善寺	大仁・修善寺	瓜生野	限定利用	大仁金山跡				地域森林計画対象民有
83			熊坂付近	学習向け	狩野川記念公園と狩野川台風、熊坂付近の地形				
84			修善寺橋	一般向け	狩野川台風と修善寺橋				
85	達磨山	達磨山	水晶山	学習向け	狩野川の景観と水晶産地としての小山				
86			達磨山北	一般向け	周囲の地形景観			自然公園地域	国有林
87			だるま山高原	一般向け	周囲の地形景観	○		自然公園地域	地域森林計画対象民有
88	船原	船原	天城ドーム	学習向け	船原火山の溶岩台地				
89			二百枚付近	学習向け	火山灰乱泥流				
90			世古の滝	一般向け	海底火山と岩脈				
91	鉢窪山	鉢窪山	与市坂	学習向け	与市坂火山の溶岩台地				森林地域
92			浄蓮の滝	一般向け	鉢窪山の溶岩流と溶岩台地	○	県指定 天然記念物	自然公園地域	森林地域
93			鉢窪山南西麓	限定利用	鉢窪山スコリア丘の断面と丸山火山の溶岩、カワゴ平火山の降下軽石				森林地域
94	滑沢	滑沢	野畔付近	学習向け	鉢窪山の溶岩流とラハール			自然公園地域	国有林
95			丸山南麓	学習向け	丸山スコリア丘の断面				国有林
96			道の駅天城越え	学習向け	エサシノ峰火山の溶岩台地、鉢窪山スコリア丘の景観、カワゴ平火山の神代杉	○		自然公園地域	国有林
97	中伊豆南エリア	中伊豆南エリア	滑沢溪谷	一般向け	滑沢火山の溶岩流とラハール、エサシノ峰火山の溶岩流	○		自然公園地域	国有林
98			本谷林道	一般向け	天城火山の溶岩流と板状節理			自然公園地域	国有林
99			天城峠	一般向け	断層によって作られた池			特別保護地区	国有林
100	国士越	国士越	八丁池	限定利用	寒天林道スコリア丘				
101			旧道天城峠から八丁池に至る遊歩道	限定利用	寒天林道スコリア丘				
102			長野	一般向け	国士越南火山の溶岩台地				
103	カワゴ平	カワゴ平	国士越付近	学習向け	国士越マールと爆発角礫岩				森林地域
104			蛇喰川	限定利用	カワゴ平火山の火砕流・ラハールの断面、河原の黒曜石転石				森林地域
105			筏場南	限定利用	狩野川台風の崩壊跡、カワゴ平火山のラハール				森林地域
106	丸野高原	丸野高原	筏場新田南	学習向け	カワゴ平火山のガラス質溶岩流と火砕流				国有林
107			カワゴ平	学習向け	カワゴ平火山の火口とガラス質溶岩流			自然公園地域	国有林
108			万天の湯付近	学習向け	丸野山スコリア丘と天城火山の溶岩台地				
			岩ノ山	学習向け	岩ノ山火山の爆発角礫岩と溶岩ドーム、マール群			自然公園地域	森林地域

No	エリア名	ジオサイト	ジオポイント	種別	説明(キーワード)	解説板	文化財指定	国立公園	森林関係計画
109	中伊豆南エリア	遠笠山	遠笠山	学習向け	遠笠山火山の溶岩流、伊豆高原方面の景観			自然公園地域	森林地域
110		持越鉱山	持越鉱山	限定利用	金鉱床と鉱山跡				
111		仁科峠・猫越岳	天城牧場	一般向け	火山地形と土地利用、カワゴ平軽石			自然公園地域	地域森林計画対象民有
112			仁科峠・猫越岳	一般向け	火山地形と溶岩流	○		自然公園地域	国有林
113	伊豆山	走り湯	走り湯	一般向け	源泉		市指定 史跡		
114		熱海	熱海市街	一般向け	大規模な温泉街の景観		市指定 史跡		
115		丹那トンネル東口	丹那トンネル東口	一般向け	丹那トンネルの開通と熱海の発展				
116		魚見崎	鯉ヶ浦	一般向け	多賀火山初期の浅い海底での噴出物				
117	熱海エリア	網代	立岩海岸	限定利用	岩脈群とスパー				
118		初島	初島	一般向け	段丘地形と地震性隆起				
119		三島	楽寿園・源兵衛川	一般向け	三島溶岩の表面、湧水	○	国指定 天然記念物 名勝		
120			菰池・白滝公園	一般向け	湧水	○	市指定 天然記念物		
121	箱根南西麓	三島大社	三島大社	一般向け	火山神信仰	○	国指定 重要文化財		
122		三島駅北口	三島駅北口	一般向け	三島溶岩の断面	○			
123		塚原周辺	塚原周辺	学習向け	箱根火山の火砕流の地形と断面、三島軽石、火砕流台地の土地利用				
124		美蓉台	美蓉台	学習向け	箱根火山の火砕流の二次タフリング				
125	千本浜・牛臥山	千本浜と沼津港	千本浜と沼津港	一般向け	「ひゅうお」を始めとする津波対策施設、千本浜と「ひゅうお」からの景観				
126		我入道	我入道	学習向け	古い漁村の街並み、狩野川河口と「ひゅうお」の景観、岩場に現れる海底火山の断片				
127		牛臥山西	牛臥山西	研究向け	海岸の崖に見られる流紋岩の海底溶岩ドーム	○			
128		牛臥山東	牛臥山東	一般向け	海岸の崖に見られる流紋岩の海底溶岩ドーム、大御神社と日蓮の津波祈禱伝承				
129	静浦・内浦	下香貫	下香貫	学習向け	安政東海地震津波がつくった池				
130		獅子浜	獅子浜	限定利用	海底火山の根と柱状節理、津波対策施設				
131		多比	多比	学習向け	海底にたまった火山灰の地層・岩脈と採石場跡				
132		内浦	内浦	学習向け	狩野川放水路の出口				
133	西浦	口野	口野	限定利用	海底にたまった火山灰・軽石の地層と斜交層理			自然公園地域	森林地域
134		淡島	淡島	一般向け	火山の根の景観				地域森林計画対象民有
135		西浦	西浦	学習向け	達磨火山の裾野地形				
136		狩野川堤防	狩野川堤防	学習向け	河川改修跡、大平地区の景観と大平年代記、多賀火山・箱根火山の地形景観				
137	北伊豆エリア	出城山付近	出城山付近	学習向け	陸間				森林地域
138		日守付近	日守付近	学習向け	陸間				
139		香貫山	香貫山展望台	一般向け	沼津周辺の地形と景観				森林地域
140		香貫山登山道	香貫山登山道	一般向け	海底火山の噴出物				森林地域
141	愛鷹山南麓	川窪付近	川窪付近	学習向け	安政東海地震の陥没跡				
142		沼津インター周辺	沼津インター周辺	学習向け	愛鷹火山の火山麓扇状地、伊豆方面の地形景観				
143		熊堂	熊堂	学習向け	富士山の噴火未遂を記録した寺、明治史料館				
144		鮎壺の滝	鮎壺の滝	一般向け	三島溶岩の断面、溶岩樹型、ローム層	○	県指定 天然記念物		
145	駿河平	割狐塚稲荷神社	割狐塚稲荷神社	一般向け	三島溶岩の溶岩流				
146		原分古墳	原分古墳	一般向け	白浜層群の凝灰岩を利用した石棺と、三島溶岩を積み上げた石室				
147		窪の湧水	窪の湧水	一般向け	火山麓扇状地と伊豆半島の景観				
148		窪の湧水	窪の湧水	一般向け	富士山の湧水と御殿場泥流				
149	長久保	鯉ヶ浦	鯉ヶ浦	一般向け	三島溶岩にかかる滝				
150		牛ヶ瀬	牛ヶ瀬	一般向け	三島溶岩にかかる滝				
151		谷津の湧水	谷津の湧水	学習向け	学校教育で利用されている愛鷹山系の湧水				
152		桃沢川	水神社	一般向け	愛鷹山系湧水と信仰				
153	柿田川	つるべ落としの滝	つるべ落としの滝	一般向け	板状節理の発達した愛鷹火山の溶岩にかかる滝		国指定 天然記念物		
154		柿田川	柿田川	一般向け	富士山系の湧水と独自の生態系				
155		本城山	本城山	一般向け	黄瀬川扇状地の地形景観と柿田川・狩野川の流れ				
156		丸池	丸池	一般向け	三島湧水群とその利用				
157	大瀬崎	清住緑地・丸池	清住緑地	一般向け	三島湧水群				
158		大瀬崎南	大瀬崎南	限定利用	大瀬崎火山の溶岩流と大瀬崎南火道	○	国指定 天然記念物	自然公園地域	地域森林計画対象民有
159		大瀬崎	大瀬崎	一般向け	砂嘴の地形と神池	○		自然公園地域	地域森林計画対象民有
160		井田	井田南	一般向け	井田火山の溶岩流、砂嘴と明神池	○		自然公園地域	地域森林計画対象民有
161	大瀬崎・戸田エリア	井田北	井田北	学習向け	井田火山の溶岩流			自然公園地域	地域森林計画対象民有
162		御浜岬	御浜岬	一般向け	砂嘴の地形、駿河湾深海生物館、デアノ号の艦、達磨火山の溶岩流と浸食地形の景観	○	県指定 天然記念物		
163		戸田	御浜南	学習向け	達磨火山の溶岩流			特別地域	地域森林計画対象民有
164		戸田	戸田	一般向け	砂嘴の地形景観、達磨火山の溶岩流と浸食地形、港町とタカアシガニ漁	○		自然公園地域	特別地域
165	舟山	舟山海岸	舟山海岸	学習向け	達磨火山の溶岩流			特別地域	地域森林計画対象民有
166		金冠山	金冠山	一般向け	周囲の地形景観			特別地域	保安林
167		真城山	真城山	学習向け	側火山の断面と活断層				
168		白浜海岸	白浜神社	一般向け	火山神、832年三宅島噴火、838年津津島噴火	県指定 天然記念物	特別地域	地域森林計画対象民有	
169	爪木崎	白浜海岸	白浜海岸	一般向け	石灰質砂岩、海食洞の天窓	市指定 史跡	特別地域	地域森林計画対象民有	
170		タカンバ海岸	タカンバ海岸	一般向け	隆起海岸地形、海食洞の浸食地形、爪木崎段丘の遠望		特別地域		
171		爪木崎	爪木崎海岸	一般向け	水底土石流	○	特別地域		
172		爪木崎西	爪木崎西	一般向け	シルと柱状節理	○	県指定 天然記念物	特別地域	
173	須崎	恵比須島	恵比須島	一般向け	海底火山の土石流と火山灰、祭祀遺跡	○	市指定 史跡	自然公園地域	特別地域
174		寝姿山	寝姿山	一般向け	火山の根、下田港と須崎半島の景観			自然公園地域	地域森林計画対象民有
175		下田富士	下田富士	一般向け	火山の根			自然公園地域	地域森林計画対象民有
176		下田市街	下田市街	一般向け	海底火山灰の石垣、津波被災の歴史	○			
177	下田港	下田港付近	下田港付近	一般向け	下田富士と寝姿山の景観、須崎半島の景観、下田の歴史	○		自然公園地域	
178		柿崎弁天島	柿崎弁天島	一般向け	斜交層理、生硬化石、波食台、下田の歴史		県指定 天然記念物	自然公園地域	
179		蓮台寺	蓮台寺温泉	一般向け	鉱山跡、温泉街				
180		吉佐美大浜	吉佐美大浜	一般向け	水底土石流と水冷水山弾、海食洞と隆起貝層			自然公園地域	
181	吉佐美・田牛	田牛サントスキー場	田牛サントスキー場	一般向け	堆砂、水底溶岩流と水底土石流、水冷水山弾、岩脈、須崎半島の景観	○	県指定 天然記念物	自然公園地域	
182		龍宮窟	龍宮窟	一般向け	海食洞の天窓、水底スコリア層、ボットホール	○		自然公園地域	
183		田代盆地	火雷神社	一般向け	北伊豆地震時の被害と断層のずれ、田代盆地の地形	○	町指定 天然記念物		
184		軽井沢	軽井沢	学習向け	断層谷と河川争奪地形				保安林
185	函南エリア	丹那盆地	丹那断層公園	一般向け	北伊豆地震時のずれ、断層の地下構造、立体模型による丹那断層の観察	○	国指定 天然記念物		
186		丹那盆地	オラッチェ	一般向け	丹那盆地の地形、丹那トンネル工事を契機とした酪農への転換				
187		池ノ山峠	池ノ山峠	一般向け	断層谷の地形				国有林
188		玄岳	伊豆スカイラインの展望台(西丹那駐車場)	一般向け	丹那断層と丹那・田代盆地の地形、富士・箱根・愛鷹火山の地形景観	○		自然公園地域	森林地域
189	月光天文台	十国峠	十国峠展望台	一般向け	丹那断層と田代盆地の地形、富士・箱根・愛鷹・天城火山などの地形景観			自然公園地域	
190		月光天文台	月光天文台	一般向け	本格的な天文台と展示、富士・箱根・愛鷹火山の地形景観				
191		柏谷	柏谷横穴群	一般向け	箱根火山の火砕流台地と、そこに彫られた横穴遺跡		国指定 史跡		
192		沼ノ川	沼ノ川東	学習向け	沼ノ川南火山の溶岩流と柱状節理				森林地域
193	天城峠	沼ノ川北西の萩野入林道	沼ノ川北西の萩野入林道	研究向け	沼ノ川北火山のスコリア丘断面と溶岩流		町指定 史跡		国有林
194		沼ノ川北西の萩野入林道	沼ノ川北西の萩野入林道	研究向け	沼ノ川北火山の溶岩流と柱状節理				国有林
195		寒天車道	寒天車道	研究向け	寒天林道火山の溶岩流とラハール			自然公園地域	森林地域
196		大滝	大滝	一般向け	登り尾南火山の溶岩流と柱状節理、溶岩流におおわれる海底火山の地層			自然公園地域	森林地域
197	河津七滝	出合滝	出合滝	一般向け	登り尾南火山の溶岩流と柱状節理			自然公園地域	森林地域
198		初景滝	初景滝	一般向け	登り尾南火山の溶岩流と柱状節理、伊豆の踊子と天城峠	○		自然公園地域	
199		かに滝	かに滝	一般向け	登り尾南火山の溶岩流と柱状節理			自然公園地域	森林地域
200		へび滝	へび滝	一般向け	登り尾南火山の溶岩流と柱状節理、溶岩流におおわれる海底火山の地層	○		自然公園地域	森林地域
201	河津・東伊豆エリア	えび滝	えび滝	一般向け	溶岩流の基盤岩	○		自然公園地域	森林地域
202		釜滝	釜滝	一般向け	登り尾南火山の溶岩流と柱状節理、溶岩流におおわれる海底火山の地層	○		自然公園地域	森林地域
203		猿田淵	猿田淵	一般向け	登り尾南火山の溶岩流と柱状節理	○		自然公園地域	森林地域
204		登り尾南の林道	登り尾南の林道	研究向け	登り尾南タフリングの断面と溶岩流			自然公園地域	森林地域
205	梨本・湯ヶ野	梨本	梨本	学習向け	梨本石灰岩				
206		湯ヶ野温泉	湯ヶ野温泉	学習向け	鉢ノ山火山の溶岩流と柱状節理			自然公園地域	
207		観音山	観音山	一般向け	海底火山の噴出物がつくる溪谷と温泉				
208		観音山	観音山	学習向け	海底火山灰に彫られた石仏群				森林地域
209	鉢ノ山	観音山西	観音山西	学習向け	大平火山の溶岩流				森林地域
210		鉢ノ山北西	鉢ノ山北西	学習向け	大平火山の溶岩流				森林地域
211		鉢ノ山山頂	鉢ノ山山頂	学習向け	鉢ノ山スコリア丘と山頂火口の地形				森林地域
212		鉢ノ山北	鉢ノ山北	一般向け	鉢ノ山の降下スコリアと火山弾、基盤の地形とスコリア層の傾斜				森林地域
213	鉢ノ山	鉢ノ山東	鉢ノ山東	一般向け	鉢ノ山スコリア丘の地形と降下スコリア、カワゴ平火山灰				
214		鉢ノ山東	鉢ノ山東	学習向け	鉢ノ山火山の溶岩流と、天城火山の土石流				森林地域
215		鉢ノ山南	鉢ノ山南	学習向け	鉢ノ山火山の溶岩流				

No	エリア名	ジオサイト	ジオポイント	種別	説明(キーワード)	解説板	文化財指定	国立公園	森林関係計画
216	河津・東伊豆エリア	鉢ノ山	佐ヶ野川遊歩道	一般向け	鉢ノ山火山の溶岩流と柱状節理				森林地域
217			大噴湯公園	一般向け	大噴湯と峰温泉				
218			沢田付近	限定利用	石丁場遺跡				
219		縄地	縄地	研究向け	縄地金山跡と鉱石			特別地域	地域森林計画対象民有 地域森林計画対象民有
220			葛浦沢海岸	学習向け	鉱石の転石				
221			上佐ヶ野林道A	研究向け	佐ヶ野川上流スコリア丘の断面				国有林
222		奥佐ヶ野	上佐ヶ野林道B	研究向け	佐ヶ野川上流火山の溶岩流と降下スコリア、観音山東火山の降下火山礫				森林地域
223			三段滝	一般向け	佐ヶ野川上流火山の溶岩流				森林地域
224			三段滝東の林道	研究向け	観音山東タフリングの地形と断面、火口湖の堆積物、カワゴ平火山の火砕流				森林地域
225		大池・小池	大池	学習向け	大池マールの地形と土地利用				森林地域
226			小池	学習向け	小池マールの地形と降下火山礫				森林地域
227			大池西	学習向け	大池・小池マールの降下火山礫				森林地域
228		細野高原	細野湿原	一般向け	土石流と湿原の関係	○	県指定 天然記念物		森林地域
229			三筋山南東斜面	一般向け	天城火山南東斜面と周囲の地形景観	○			森林地域
230			稲取高校北	限定利用	稲取スコリア丘の断面と火山弾				森林地域
231		稲取	浅間山	一般向け	天城火山の地形景観				森林地域
232			黒根峠	一般向け	稲取火山の溶岩流、稲取峠の地形景観			特別地域	
233			はさみ石	一般向け	天城火山の溶岩流と浸食地形			特別地域	
234		稲取峠の西の海岸	稲取港付近	学習向け	稲取スコリア丘と溶岩流の地形景観				
235			稲取峠南岸	学習向け	天城火山の溶岩流、長野台地・須崎半島の地形景観				
236			稲取峠の西の海岸	一般向け	天城火山の溶岩流と板状節理、岩脈、石丁場		町指定 史跡	特別地域	森林地域
237		堰口・川久保川	堰口の採石場跡	学習向け	堰口スコリア丘の断面と溶岩流				
238			一の沢併用林道	学習向け	川久保川スコリア丘の断面と溶岩流				森林地域
239			要害橋	学習向け	峡谷とそれをつくる岩体				森林地域
240		白田川源流	白田林道	限定利用	白田碓氷鉱山跡と鉱石		町指定 史跡		国有林
241			白田林道分岐	学習向け	堰口川上流スコリア丘と溶岩流				国有林
242			シラヌタの池	一般向け	地すべりがつくれた池と自然環境		県指定 天然記念物		国有林
243		熱川・北川	穴切海岸遊歩道	一般向け	天城火山の溶岩流と流理、海食洞、大室山と伊豆高原の地形景観			特別地域	森林地域
244			北川温泉	一般向け	刻印石、伊豆高原の地形景観			特別地域	
245			小土肥海岸	学習向け	達磨火山の溶岩流、外来軽石			自然公園地域	
246	土肥金山	土肥金山	一般向け	金鉱床と鉱山跡、資料館	○	市指定 史跡			
247		龍附天正金鉱	一般向け	金鉱床と鉱山跡		市指定 史跡		地域森林計画対象民有	
248		かまき敷付近	研究向け	アルカリ玄武岩の貫入岩体				地域森林計画対象民有	
249	小下田	小下田付近	学習向け	小下田安山岩類の地形					
250		小下田海岸	学習向け	小下田安山岩類の断面			自然公園地域		
251		清越鉱山跡	限定利用	金鉱床と鉱山跡			自然公園地域		
252	宇久須珪石	宇久須珪石鉱床跡	限定利用	珪石鉱床と鉱石				地域森林計画対象民有	
253		黄金崎	一般向け	黄金崎の景観と変質岩、岩脈、鉱石	○	県指定 天然記念物	特別地域	地域森林計画対象民有	
254		浮島海岸	一般向け	岩脈群	○		特別地域		
255	堂ヶ島・仁科港	堂ヶ島海岸北	堂ヶ島海岸北	一般向け	三四郎島とトンボロ現象、海底火山灰と軽石		県指定 天然記念物	自然公園地域	
256			堂ヶ島海岸南	一般向け	海底火山の土石流と軽石、海食洞と天窓	○	国指定 天然記念物	特別地域	地域森林計画対象民有
257			沢田公園付近	一般向け	白岩の壁面、海底火山の土石流と軽石		町指定 絵画	自然公園地域	森林地域
258		枯野公園付近	枯野公園付近	一般向け	海底火山の溶岩流、土石流と荷重痕			自然公園地域	
259			安城峠	一般向け	海底スコリア丘と軽石			自然公園地域	
260			仁科小学校校庭裏	限定利用	仁科層群の枕状溶岩				
261		燈明が崎・田子	燈明が崎・田子	一般向け	海底火山の断面			特別地域	地域森林計画対象民有
262			一色	一般向け	仁科層群の枕状溶岩、岩脈	○			地域森林計画対象民有
263			宝蔵院西	研究向け	火山灰乱泥流、地殻変動による急傾斜				地域森林計画対象民有
264		仁科川・宝蔵院	日経興業採石場	研究向け	海底火山の土石流と火山灰、岩脈				
265	宝蔵院西		研究向け	宝蔵院石灰岩、白浜層群／湯ヶ島層群不整合				地域森林計画対象民有	
266	出合付近		学習向け	火山灰乱泥流と微化石				地域森林計画対象民有	
267	大城・宮ヶ原	大城	学習向け	巨大地すべりと宮ヶ原盆地				地域森林計画対象民有	
268		宮ヶ原	学習向け	巨大地すべりと宮ヶ原盆地、天城深層水				地域森林計画対象民有	
269		西天城高原	学習向け	火山地形と土地利用、宇久須方面の景観				地域森林計画対象民有	
270	仁科峠・猫越岳	弁天島	一般向け	海底溶岩流と津波対策	○		自然公園地域	森林地域	
271		江奈	学習向け	江奈石灰岩					
272		桜田付近	学習向け	火山灰乱泥流				地域森林計画対象民有	
273	岩地・石部・雲見	松崎・桜田	室宮洞	一般向け	海底火山の軽石と溶岩流、石丁場遺跡	○		自然公園地域	森林地域
274			鳥帽子山	一般向け	火山の根と周囲の地形景観	○		自然公園地域	地域森林計画対象民有
275			千貫門	一般向け	海底火山の断面	○		自然公園地域	
276		石部南	蛇石火山の地下水と棚田	一般向け	蛇石火山の地下水と棚田				
277			雲見港	一般向け	海底火山の軽石層と鳥帽子山の景観	○		自然公園地域	
278			オートキャンプ場付近	一般向け	鳥帽子山と千貫門付近の景観(雲見夕陽と潮騒の岬オートキャンプ場)	○		自然公園地域	
279		岩地峠	岩地峠	一般向け	海底火山の軽石層と美しい入り江	○		自然公園地域	
280			岩地峠	一般向け	海底火山の噴出物、岩地峠断層、砂層岩脈			自然公園地域	
281			門野付近	研究向け	門野断層の地形、地すべり地形とその土地利用				
282		池代・長九郎山	池代付近	学習向け	海底火山の噴出物、マンガング鉱山跡				
283	長九郎林道		研究向け	海底火山の噴出物と岩脈				地域森林計画対象民有	
284	長九郎林道		研究向け	長九郎火山の溶岩流				国有林	
285	波勝崎	波勝崎北	波勝崎北	一般向け	変質岩の大岩壁(赤壁・蛇のぼり)	○		自然公園地域	地域森林計画対象民有
286			蛇石	一般向け	蛇石岩体の謎				地域森林計画対象民有
287			大池	学習向け	蛇石火山上の凹地と湿原				
288	天神原・蛇石	天神原	学習向け	蛇石火山の地形と土地利用	○			地域森林計画対象民有	
289		一町田	学習向け	蛇石火山の地形と土地利用				地域森林計画対象民有	
290		伊浜	学習向け	蛇石火山の地形、海底火山の噴出物			自然公園地域		
291	落居	落居	学習向け	蛇石火山の地形、海底火山の噴出物			自然公園地域		
292		妻良峠	学習向け	蛇石火山の地形景観、南伊豆の地形の非対称性			特別地域	地域森林計画対象民有	
293		妻良付近	一般向け	海底火山の噴出物と岩脈、火山の根、蛇石火山の地形景観			特別地域	地域森林計画対象民有	
294	妻良・子浦	白崎	一般向け	海底火山の噴出物と層理			自然公園地域	地域森林計画対象民有	
295		子浦三十三観音	一般向け	海底火山の噴出物と石仏	○		自然公園地域		
296		長堤峠	限定利用	海底火山の噴出物と斜交層理				森林地域	
297	龍崎	龍崎	一般向け	海底火山の噴出物と岩脈			自然公園地域		
298		入間付近	一般向け	海底火山の噴出物と火山の根、津波堆積物と疑われた砂層			自然公園地域		
299		トサカ岩付近	一般向け	海底火山の噴出物と岩脈			特別地域	地域森林計画対象民有	
300	奥石廊海岸	入間千畳敷付近	一般向け	海底火山の噴出物、波食台			特別地域	地域森林計画対象民有	
301		三ツ石	一般向け	海底火山の噴出物と岩脈			自然公園地域		
302		中木付近	一般向け	海底火山の噴出物と火山の根、伊豆半島沖地震の崩壊跡	○		自然公園地域		
303	吉田付近	吉田付近	一般向け	海底火山の噴出物			特別地域		
304		海岸全体	一般向け	海底火山の断面、南崎火山の断面			自然公園地域		
305		石廊崎港	一般向け	海底火山の噴出物と地形			自然公園地域		
306	石廊崎・池の原	石室神社	一般向け	海底火山の浸食地形とそれを利用した神社			自然公園地域		
307		ユウスゲ公園	一般向け	南崎火山の地形とそこからの景観	○		特別地域	地域森林計画対象民有	
308		加納付近	限定利用	凝灰岩の石丁場				地域森林計画対象民有	
309	下賀茂温泉	下賀茂温泉	一般向け	多数の源泉と温泉熱利用	○		自然公園地域		
310		弓ヶ浜	一般向け	砂噴の発達と砂浜の成立			自然公園地域		
311		弥陀堂とその周辺	一般向け	海底火山の噴出物と海食洞		国指定 天然記念物	自然公園地域	地域森林計画対象民有	
312	弓ヶ浜東	弓ヶ浜東	一般向け	海底火山の断面と浸食地形			自然公園地域	地域森林計画対象民有	
313		石廊崎断層	学習向け	活断層地形と伊豆半島沖地震			自然公園地域		